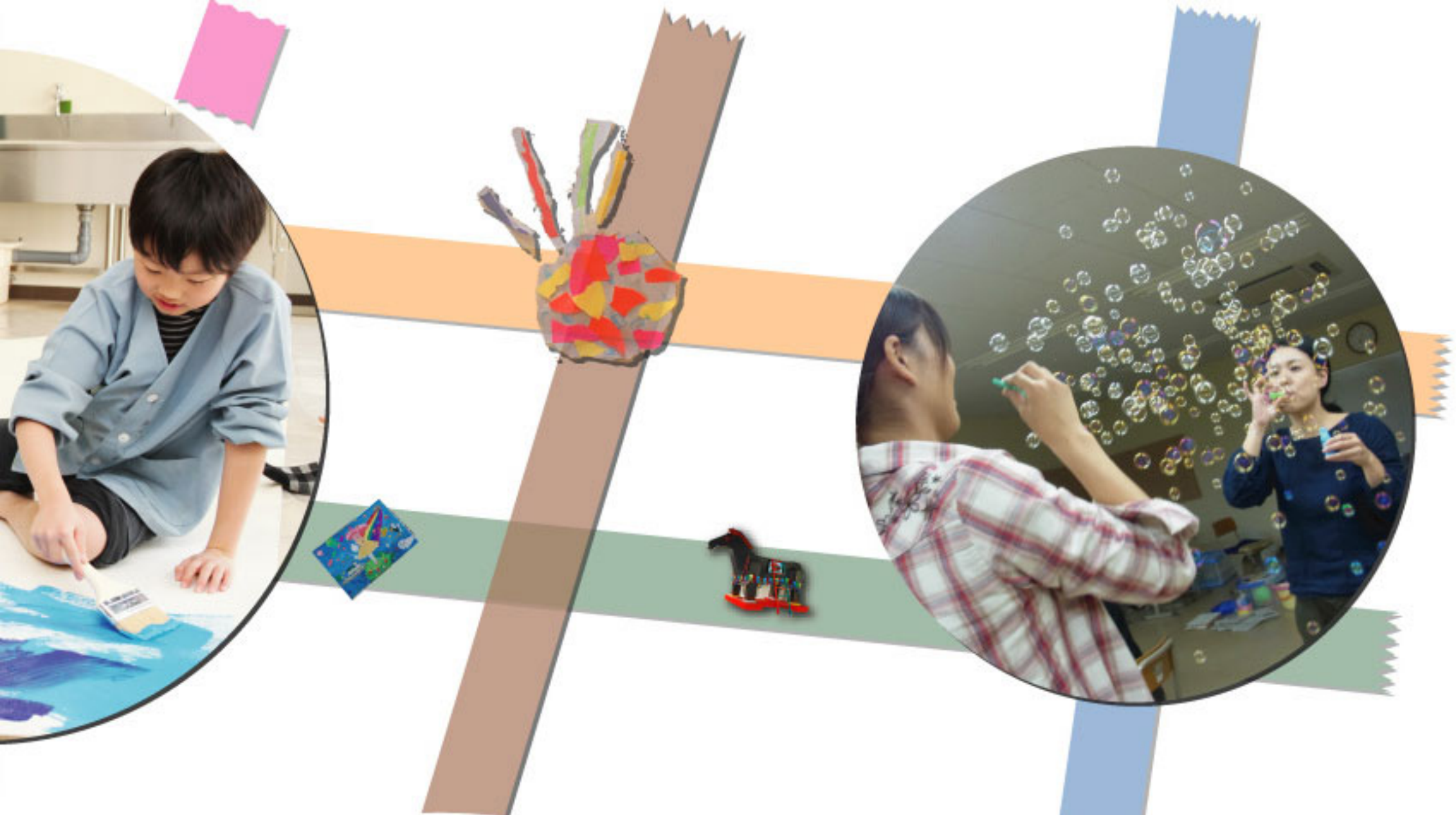




**前橋市における美術館構想  
プレイベントの記録  
2010.10～2012.3**



## ごあいさつ

この小冊子は、前橋市が未来へ向けた文化的創造性を育むためにおこなった事業をご紹介しますものです。平成 22 - 23 年の間に「前橋市における美術館構想」のプレイベントとして、「アートでつながる市民の創造力」をミッションに掲げ、親子で参加できるワークショップ、トークイベント、展覧会、芸術家の長期滞在制作、アートスクールなどを実施してきました。

この構想は、まちなかに立地する文化施設が、美術愛好家だけではなく幅広い利用者の交流の場になることを反映し、なるべく気軽に多くの方に参加いただけるような事業を企画してまいりました。そうすることで、名画や巨匠の作品を鑑賞することだけが芸術文化の魅力なのではなく、市民一人ひとりが新しい創造力の担い手になっていただくことができると私たちは考えています。この地域に引き継がれている芸術文化や若い世代の芸術家たちの魅力に触れていただき、人々とそれを分かち合うこと、あるいはもっと芸術を知りたいという欲求を深めていただくことで、市民がこの地域の記憶を文化によって創り出していく主人公になることを目指してきました。

また、この地域にある様々な文化施設や団体、個人と連携することで、お互いの知識や経験を共有していくこともこれらの事業を通して実践してきたことで、多くの方々のご支援やご助言がなくては実現できませんでした。この場を借りて皆様に深く感謝を述べるとともに、今後も引き続きご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

平成 24 年 3 月

前橋市文化国際課美術館開設準備室



# CONTENTS

- 1 ごあいさつ
- 4 プレイベント・リスト&年表

## I . つながる・成長する・文化を創る美術館

### 8 1. つながる

- 10 平成 22 年度前橋市収蔵美術展 コレクション+ 「風景の裏側」
- 14 アートスクール B「モヤモヤをかたちにする」
- 18 駅家の木馬
- 22 平成 23 年度前橋市収蔵美術展 コレクション+ 「つながる、つたえる」
- 26 開局！街中ラジオハイスクール
- 28 シンポジウム 「美術館をかたる」
- 32 アーティスト・イン・レジデンス

### 36 2. 成長する

- 38 ミニギャラリー千代田 市民活動拠点
- 42 トーク 「美術館をつくる」
- 46 空に雲を描こう！
- 50 アートスクール C「美術をかたる」

- プレイベント活動報告展示 54
- フラッグアート 2011 56
- 前橋アートコンペライブ 2011 60

### 64 3. 文化を創る

- おやこでねじっこ 66
- 前橋市美術館（仮称）プロポーザルコンペティション公開展示 70
- 新しい立体造形：富井大裕＋照屋勇賢 72
- アートスクール A「ちがいを楽しむ」 76
- 広げよう美術の環 彫刻 1,000 体ツクルンジャー 80
- トーク 「美術館ができる 建築・デザイン・アート」 84

## II. データ編

- 出品目録 88
- 地図 90
- 広報関係 92
- 入場者数 94
- 中止となったプレイベント 94
- ご協力くださった方々 95

プレイベント・リスト&年表

美術館構想

2011.1.30 設計プロポーザル  
コンペティション公開プレゼンテーション  
基本設計業者決定＝水谷俊博建築設計事務所

2011.3  
設計開始

2011.7 基本設計終了

●2011.1 チュニジアから、エジプト、リビアなど中東各国へ民主化運動が波及する

●2011.3.11 東日本大震災

●2011.7.24 地上波テレビ放送がデジタル放送へ完全移行

●2011.10.31 円高が進行し戦後最高値の 75.32 円をつける

●2011.12.17 北朝鮮の  
金正日総書記が死去

●2011.12 市議会において  
議案可決、工事着手

●2011.12.26  
近隣住民説明会

●2011.4.1 文化国際課内に美術館開設準備室を設置

●2011.7.5 市民活動拠点開設

●2008.10～2009.3 市民による美術館構想に向けてのワークショップ（8回）

●2009.11～2010.3 基本構想検討委員会（4回）

●2010.4～5 基本構想（素案）に関するパブリックコメント実施

●2010.5～11 基本計画検討委員会（4回）

●2010.6 旧ウォーク館を改修し美術館として活用することを決定

●2010.7 基本構想策定

●2010.11 基本計画策定

●2010.11 美術館プレイベント開始

2008

2009

2010.4

5

6

7

2010.11

12

2011.1

2

3

4

7

8

9

10

11

12

2012.1

2

3

vol.1 おやこでねじっこ 2010.11.23 ●

vol.2 美術館をつくる 2010.12.11, 2010.12.18 ●

vol.3 前橋市美術館（仮称）プロポーザル

コンペティション公開展示 2011.2.11-13 ●

vol.4 平成 22 年度収蔵美術展

コレクション＋ 風景の裏側 2011.2.25-3.27 （3.14 以降中止） ●

vol.5 空に雲を描こう！ 2011.3.6 ●

vol.6 美術館のウラ側 ＊震災により中止

vol.7 思い出のリサイクル ＊震災により中止

vol.8 放課後 お絵かき隊 ＊震災により中止

vol.9 新しい立体造形：富井大裕＋照屋勇賢 2011.7.1-31 ●

vol.10 アートスクール ●

A ちがいを楽しむ 2011.7.30-11.12（6回）

B モヤモヤをかたちにする 2011.7.22-24, 11.25-27

C 美術をかたる 2011.7.29-12.16（6回）

vol.11 広げよう美術の環 彫刻 1,000 体ツクルンジャー 2011.8.2-3 ●

アーティスト・イン・レジデンス  
（照屋勇賢）

●アーティスト・イン・レジデンス（ペ・ヨンファン）

●美術館プレイベント活動報告展示 2011.8.16-9.1

●フラッグアート 2011.11.22-2012.2.28

●前橋アートコンペライブ 2011.12.4

vol.12 駅家の木馬 2011.9.4 ●

vol.13 美術館ができる 2011.9.10 ●

vol.14 平成 23 年度収蔵美術展

コレクション＋ つながる、つたえる 2011.11.3-23

vol.15 街中ラジオハイスクール 2011.11.23 ●

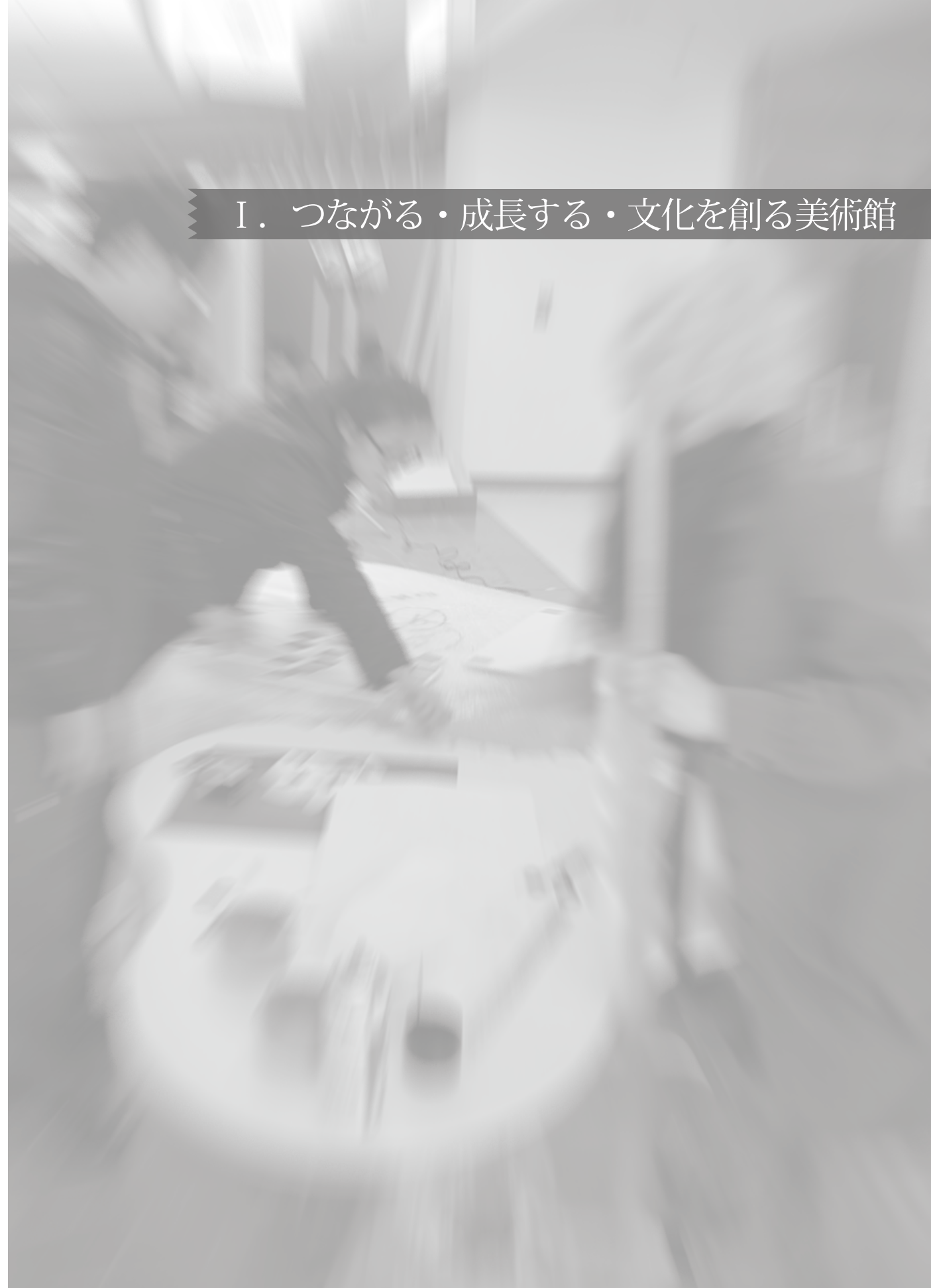
vol.16 美術館をかたる 2012.1.14 ●

プレイベント

プレイベント



# I. つながる・成長する・文化を創る美術館



# 1. つながる

自分とは別の誰かが創り上げた表現を見る  
そして、それを見ながら感想を交換する  
美術館はそうしたつながりを地域へ広げていく役割を担います

アートと人が「つながる」  
人と人が「つながる」  
過去と現在が「つながる」  
前橋とほかの地域、世界が「つながる」





この街の風景が、ふとしたきっかけで違った景色に。  
朔太郎の『猫町』、脈々とつながっていくまなざし・・・。

フレイヴント  
FRUIT FLAVOR



コレクシヨ+ 美術館プレイベント vol. 4  
平成 22 年度 前橋市 収蔵美術展

# 風景の裏側 Unknown Sight

2011 年 2 月 25 日 [金]—3 月 27 日 [日]

会場 | 前橋文学館 3 階オープンギャラリー  
ミニギャラリー千代田  
前橋プラザ元気 21 別館 1 階  
美術館予定地/目ウオーグ館

公開時間：午前 10 時—午後 5 時 全曜日のみ午後 7 時まで  
(入場は閉場 30 分前まで)  
休 館 日：月曜日 (祝日の場合は開館し、翌日休館)  
入 場 料：無料

※ 前橋文学館の東館側を右の方には別途入館料が必要となります。  
主催：前橋市/協力：前橋市教育委員会、前橋文学館/協賛：後援：前橋市文化振興課 tel 027-858-5257 fax 027-221-5717

## 平成 22 年度前橋市収蔵美術展 コレクション+ 風景の裏側

### Data

- 【事業名称】 美術館プレイベント Vol. 4
- 平成 22 年度前橋市収蔵美術展 コレクション+ 「風景の裏側」
- 【開催期間】 平成 23 年 2 月 25 日 (金) ～ 3 月 27 日 (日)
- \* 前橋文学館とミニギャラリー千代田は月曜休館で
- \* 3 月 11 日の東日本大震災により、12 日は閉場、13 日は開場、14 日以降は中止となった。
- 【開催時間】 9:30 ～ 17:30 (金曜は 19:00 まで)
- \* 前橋プラザ元気 21 別館は外からの鑑賞となり、午後 10 時まで照明を点灯。
- 【会場】 前橋文学館 3 階オープンギャラリー  
ミニギャラリー千代田  
前橋プラザ元気 21 別館
- 【主催】 前橋市
- 【協力】 前橋市教育委員会、前橋文学館、前橋ボランティア連絡会

### 概要

本市では、全国レベルで活躍した郷土ゆかり作家の作品約 850 点を所蔵しており、その鑑賞機会を市民に提供し、本市および地域の芸術文化振興に寄与することを目的に、年 1 回程度、市収蔵美術展を開催しています。

本年度は、収蔵作品に加えて、国内外で活躍する前橋ゆかりの若手作家の作品を加えて、美術館プレイベントに位置づけて実施しました。例年、前橋市民文化会館を会場に開催していましたが、本年度は同館が改修工事で休館中ということや、街なかに美術館ができるということを伝えるために、徒歩圏内の前橋文学館 3 階オープンギャラリー、ミニギャラリー千代田、美術館予定地である前橋プラザ元気 2 1 別館を会場として選定しました。

本展覧会テーマである「風景の裏側」は、本市出身の詩人・萩原朔太郎が、短編小説『猫町』の中で、普段見慣れた日常の風景がふとしたきっかけで違った景色に見えることを“秘密の裏側”と呼んだことにちなんでとりあげました。画家の表現する世界も同じで、ありふれた日常を、画家それぞれのフィルターを通して、少しだけ見知らぬ表情で示してくれます。赤城山や駅前の風景も、南城一夫や福田貂太郎の目を通すことによって少し違う風景に見えたかもしれません。このように、いつもと違った視点を提示する作品を紹介しました。

前橋文学館 3 階オープンギャラリーには、南城一夫《赤城山 (月光)》など 8 作家 9 点の収蔵美術品と、若手作家の須藤和之の日本画 2 点、ミニギャラリー千代田には、福田貂太郎《噴水 (前橋駅前)》など 5 作家 7 点の収蔵美術品と、若手作家の牛嶋直子の絵画 3 点を展示しました。前橋プラザ元気 2 1 別館は、今井由佳の彫刻 2 点、小泉明郎の映像作品 1 点のほか、前橋文学館の協力を得て萩原朔太郎が当時の前橋市内を撮影した立体写真 (複製) 6 点を展示し、屋外からガラス越しに作品を鑑賞する展示としました。

運営面では、会場受付と監視員として例年依頼している前橋ボランティア連絡会の方々はじめ、市民活動拠点のミニギャラリー千代田の運営補助をお願いしている学生サポーターの協力を得ました。学生と年配者の異世代交流の機会にもなったようです。

### 参加者からの声

- ・美術館が早くできるのを楽しみにしています。  
(70 代、男性)
- ・通りがかったところで見学できてうれしいです。  
きょうのこの場所にあっているようで、昔からの街並み (知らない、未知の風景をみたような) を連想させてくれるようで。  
(20 代、女性)
- ・街中でふと芸術にふれられるのが良いです。  
(20 代、女性)
- ・数ある収蔵品を随時企画して展示してください。  
(男性)
- ・今回のこの美術展の各作品はすばらしいと思いました。  
(30 代、男性)
- ・地元根付いていて良い企画だと思いました。  
(20 代、女性)
- ・ぜひ街の中に回遊できる美術館ができるように計画してほしい。  
(60 代、女性)
- ・街中を歩くきっかけになりました。(20 代、女性)



南城一夫《赤城山 (月光)》1979 年

## 街なかでの展示場所の位置関係



ミニギャラリー千代田



広瀬川美術館



前橋プラザ元気21 別館

## 若手作家プロフィール

## 今井由佳

1977年 群馬県前橋市生まれ。2003年 東京藝術大学大学院鍛金修了。2010年 ミラノ・ブレア国立美術アカデミア彫刻科卒業。主な受賞歴に、コンカ賞コンクール（グランプリ受賞・モニュメント設置）、エドガルド・マンヌッチ国際彫刻コンクール（買い上賞）、ロンバルディア州美術史協会コンクール（最高賞）など、他国際コンクール多数受賞。

《虚実》2003年  
鉄・布・液体ガス

## 牛嶋直子

1979年群馬県前橋市生まれ。2004年女子美術大学絵画学科日本画専攻卒業。卒業時総代として加藤成之記念賞受賞。2008年女子美術大学大学院美術研究科日本画研究領域修了。2009年女子美術大学制作・研究奨励賞受賞。主な個展に「彼方の風景」画廊翠巒（群馬／2008、2010）、「silent story」銀座ギャラリーアートもりもと（東京／2006）。主なグループ展に「アートフェア東京」（2009、2010）

《kingdom (10-02)》2010年  
パネル・顔料・樹脂

## 小泉明郎

1976年 群馬県館林市生まれ、高校1年まで前橋で育つ。2002年 ロンドンインスティテュート・チェルシーカレッジ・メディア科卒業。2005年 文化庁新進芸術家海外留学制度助成。2005-2006年 ライクスアカデミーのアーティスト・イン・レジデンス参加。主な個展に「MAM プロジェクト 009：小泉明郎」森美術館（東京／2009）。主な参加展覧会に「リバープール・ビエンナーレ 2010」「メディア・シティ・ソウル 2010」「愛知トリエンナーレ」（以上 2010）

《僕の声はきっとあなたに届いている  
(シングルスクリーン・バージョン)》  
2009年  
HD ビデオインスタレーション・  
16分45秒

## 須藤和之

1981年 群馬県勢多郡宮城村（現・前橋市）生まれ。2005年 多摩美術大学絵画科日本画専攻卒業。2006年 第3回前田青邨記念大賞展。奨励賞（同 2008）。2008年 再興第91回院展初入選（同 2009、2010）。第62回春の院展初入選（同 2007、2008、2009）。2010年 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復日本画博士課程（博士号取得）

《翼の刺繍》2006年  
和紙に岩彩



「こんなことをやってみたい」という想いを実現化していく



## アートスクールB モヤモヤを かたちにする

### Data

【事業名称】美術館プレイベント Vol. 10 アートスクールB コース  
「モヤモヤをかたちにする」

【開催日】

第1期集中（夏）前橋をあるく / かたる

平成23年7月22日（金）19:00～21:00

23日（土）10:00～17:00

24日（日）10:00～13:00

第2期集中（秋）前橋でつくる / かんがえる

平成23年11月25日（金）19:00～21:00

26日（土）10:00～17:00

27日（日）10:00～12:00

【ファシリテーター】藤浩志（美術家）

【会場】ミニギャラリー千代田、市内各所

地域アートプロジェクトは全国各地でおこなわれています。地域の魅力がアーティストの創造力によって再生する、そんな試みに関心が高まっています。それは政治や経済とは別の手段としての〈街おこし〉なのでしょうか。

地域アートプロジェクトの第一人者である藤浩志さんを講師に招き、個人や地域社会に潜むモヤモヤ（言葉にできない違和感のようなもの）を受講生と一緒に考えました。

前期では各受講生の活動紹介と商店街を散策した後、まちなかを舞台とした企画案を考案し、後期では受講生が考えたお試しアートプロジェクト（街角いい面構えコレクション）の実践をおこないました。

### 前期 アイデアを持ち寄る



藤浩志とのディスカッション

シャッターを開けたお店を  
劇場仕立てにして、ロール  
プレイング演劇を上演して  
みたい！



この広場は  
普段どんな使われ方を  
しているのかな？





## 後期 アートプロジェクト実践編

## 『街角いい面構えコレクション』

後期の授業では、建物を人間に見立てて架空のプロフィールを作る「街角いい面構えコレクション」を実施しました。参加者各自が街中を散策して集めた写真を持ち寄り、紹介をした後に、一番いい面構えを決めるコンテストをおこないました。



まちかど つらがま  
街角いい面構えコレクション

たても の にんげん み た かくう つく  
この建物を人間に見立てて、架空のプロフィールを作ってみました。

|               |                                      |
|---------------|--------------------------------------|
| なまえ<br>名前     | 菊池 絵里奈                               |
| ねんれい<br>年齢    | 20才                                  |
| じゆうしょ<br>住所   | 前橋                                   |
| しごと<br>仕事     | 専門学校生(デザイン系)                         |
| せいかく<br>性格    | 高校卒業後、地元専門学校に通ったが、バイトと京子観念を<br>うせざらぬ |
| あだな<br>ニックネーム | エリナ                                  |

## ◎「プランツ」について

アートスクールBコース修了後、モヤモヤをカタチにする場＝実現してみたいアイデアを持ち寄り、実現化に向けてディスカッションを重ね、様々な分野・世代・価値観を持つ人達と交流する場として、月に一度開催しているミーティングテーブルです。

プランツからは、市内で開催されたイベントを言葉とメンバー自身の表現方法で記録していく『コトノバラボ』や、受講者有志が発足した『ロッテングラムチャウダーズ』などの活動が生まれています。

\*随時、プランツメンバーを募集しています。まちなかでこんなことをやってみたい！というアイデアをお持ちの方は、月に一度開催しているプランツミーティングに参加してみませんか？

参加希望の方は plants.maebashi@gmail.com までお問い合わせください。



地域に新しいお祭りを作る。それはあたらしいつながりをもたらした。



“こころひとつ。響け！日本”まえばしフェスタ“風”

## 駅家の木馬

### Data

【事業名称】“こころひとつ。響け！日本”まえばしフェスタ“風”  
美術館プレイベント Vol. 12「駅家の木馬」  
夏休みキッズフェスタ2011「おまつり木馬をつくろう」  
【開催日】平成23年8月6日（土）  
【時間】1回目：11:00～12:00、2回目：14:00～15:00  
【会場】前橋プラザ元気21 3階 中央ホール

中央小学校ワークショップ  
【開催日】平成23年8月24日（水）  
【時間】10:30～12:00  
【会場】前橋市立中央小学校 2階 少人数教室

桃井小学校ワークショップ  
【開催日】平成23年8月26日（金）  
【時間】9:00～10:30  
【会場】前橋市立桃井小学校 1階 1年1組教室

駅家（うまや）の木馬まつり  
【日時】平成23年9月4日（日） 1回目：14:00～15:00  
2回目：16:00～17:00  
【会場】前橋中心商店街 各所  
【主催】駅家の木馬まつり実行委員会・まえばしフェスタ実行委員会  
【共催】前橋市  
【後援】前橋市教育委員会、前橋中心商店街協同組合、前橋商工会議所、  
上毛新聞社、朝日新聞前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、  
産経新聞前橋支局、東京新聞前橋支局、日本経済新聞前橋支局、  
NHK 前橋放送局、エフエム群馬、（株）まえばし CITY エフエム  
【協力】大蓮寺、弁天通商店街、原嶋屋総本家



### 木馬制作ワークショップ



夏休みキッズフェスタ 2011「おまつり木馬をつくろう」  
夏休みキッズフェスタ 2011 の企画に合わせて、木馬まつり当日に練り歩く小さな木馬2体に色を塗るワークショップを実施しました。駅家（うまや）の木馬まつりのいわれを紹介する紙芝居を上演し、その後に子どもたちに水性塗料で木馬に色を塗ってもらいました。



中央小学校ワークショップ  
前橋中心商店街の大部分が学区内である前橋市立中央小学校にて、木馬まつり当日に引き回す木馬1体に色を塗るワークショップを開催しました。  
今回はマーチング練習後の5～6年生が対象ということで、地元の歴史を学んだ子どもも多く、木馬への乗馬を楽しみつつも、物語の紙芝居を真剣に聞いている子どもが多かったです。



色塗りに関しては、混色を上手く使って塗ることが出来ました。最後に自分たちで塗った木馬と記念撮影をして、無事に終了しました。  
この日は群馬テレビにも来て頂き、夕方の番組で取り上げていただきました。



桃井小学校ワークショップ  
前橋中心商店街の一部や前橋市役所が学区内である前橋市立桃井小学校にて、木馬まつり当日に引き回す木馬1体に色を塗るワークショップを開催しました。  
中央小学校と同様に高学年の子どもが多かったのと、物語の紙芝居に桃井小学校が出てくるのも手伝って、参加している子どもたちは皆、紙芝居をしっかりと聞いていました。今回は女子が多かったため、パステルカラーを基調にして綺麗に塗ることが出来ました。



## 駅家（うまや）の木馬まつり



『駅家の木馬まつり』は、物語の基点となる大蓮寺をスタートし、前橋中心商店街の弁天通り、中央通り、銀座通り、オリオン通り、立川町大通りを周回しました。

紙芝居の上演後、「木馬だ、木馬だ、だ、だ、だ」のかけ声とともに進む木馬の列は、ワークショップでペイントされた4体の小さな木馬を先頭に、美術作家・白川昌生が制作した大きな木馬が続きます。小さな木馬には子どもたちが乗り、大きい木馬には「駅家の木馬」物語にも出てくる弁財天とその付き人に扮した地元の子どもが乗り、これまでのワークショップ参加者を含めた多くの子どもやその親御さんたちと一緒に街中を練り歩きました。

メディアを通じてこのイベントに共感して下さった原嶋屋さんからは、焼き馒頭の差し入れをいただきました。また、お祭りの賑やかし（音楽隊）には前橋を中心に活躍する厩橋CHINDO N倶楽部や群馬を拠点に活動するドラムサークルぐんまの方々にご協力いただき、とても賑やかなお祭りとなりました。

## 木馬通信、チラシ、パンフレットなど



木馬通信 1～3号

上) 駅家の木馬まつり チラシ 中) パンフレット表紙 下) パンフレット目次

より多くの人たちに駅家の木馬まつりを知っていただくために、ワークショップ内容や木馬まつり当日の内容をまとめた「木馬通信」と、『駅家の木馬』物語と物語に出てくる実在の人物・お店の情報を載せたパンフレットを制作し、市内各所や木馬まつり当日に配布しました。



この街を知ることで、さまざまな「つながり」が見えてくる。  
それらは、未来へ「つたえる」大切な贈り物・・・。



## 平成 23 年度前橋市収蔵美術展 コレクション+ つながる、 つたえる

### Data

【事業名称】美術館プレイベント Vol. 14  
平成 23 年度前橋市収蔵美術展 コレクション+ 「つながる、つたえる」  
【開催期間】平成 23 年 11 月 3 日（木・祝）～11 月 23 日（水・祝）  
【開催時間】10:00～17:00（11 月 3 日と 23 日のみ 19:00 まで）  
＊前橋プラザ元氣 21 別館は外からの鑑賞となり、午後 10 時まで照明点灯。  
【会場】ミニギャラリー千代田  
前橋プラザ元氣 21 別館、広瀬川美術館、臨江閣  
【主催】前橋市  
【協力】前橋市教育委員会、広瀬川美術館、（財）前橋観光コンベンション、  
前橋中心商店街協同組合、（株）まえばし CITY エフエム、前橋ボランティア連絡会



### 概要

本市では年 1 回程度、収蔵美術展を開催していますが、平成 23 年度も前年度に引き続き、「コレクション+（プラス）」シリーズとして、収蔵作品と前橋ゆかりの若手作家の作品と一緒に紹介しました。明治期に迎賓館として使われた臨江閣や、ラ・ボンヌ絵画教室として子どもから大人まで多くの美術愛好者が集った広瀬川美術館、そして美術館予定地という、文化交流の場を会場とすることで、美術作品や会場となる建物を介して、まちと人、地域と歴史、文化、記憶などを「つなぎ」、未来へ「つたえて」いくことをテーマとしました。

ミニギャラリー千代田と広瀬川美術館には、収蔵作品の中からテーマに沿った作品を抽出し、ミニギャラリー千代田には中村節也《ハツ橋母子像》など 6 作家 6 作品、画家の近藤嘉男の自宅兼アトリエを改築した広瀬川美術館には、建物が建てられた同時期に描かれた近藤の《作品 A》や、同時代の広瀬川畔を描いた川隅路之助の作品など 7 作家 12 点を展示しました。前橋プラザ元氣 21 別館では、展覧会がはじまる 3 週間前から展示作業を始めた若手作家の狩野仁美が会場全体を使って映像や写真、立体作品のインスタレーションを発表しました。臨江閣は、戦争体験者の父が B 2 9 を描き続ける行為を撮影した小泉明郎の作品《“ X ”》を天井に投影。木暮伸也は前橋郊外の桑畑の写真と自宅に残る昔の集合写真を組み合わせた作品を発表し、中島佑太は、本館 2 階の畳を剥がして、臨江閣の机を積み上げた会場で月にまつわる話を流し、鑑賞者とのコミュニケーションの場を創出するインスタレーションをおこないました。

このほか、会場を回遊してもらうための仕掛けとしてスタンプラリーを実施。また、街なかの各施設と連携して、前橋在住のアーティストがペイントした特別仕様の自転車を利用できるレンタサイクルを紹介しました。

### 関連事業

- i. オープニング・アーティストトーク  
日時：11 月 3 日（木・祝）15:00～16:00
- ii. 作品解説会  
日時：11 月 13 日（日）14:00～15:00







ミニギャラリー千代田



前橋プラザ元気 21 別館



広瀬川美術館



臨江閣



## 参加者からの声

- 何年も前から、収蔵作品が多数眠っていて残念と思っておりました。小さな美術館でも、何回も展示替え、季節ごとに良い作品に会えるのがいいですね。今の新しいアートを取り入れて、ぜひ実現させてください。(60代、女性)
- とても大きな期待を抱いています。アートの東京一極集中を打破して、地方から、今を生きるアートを力強く発信されることを期待しています。(40代、男性)
- 美術や文化を重要視する、力を入れることが難しい時代になっていると感じていますが、そのような中で新しく美術館を開くことは大変重要だと思います。(20代、女性)

## 作家コメント



木暮 伸也 (1970 年生)

《景織》は、桑と人物の集合写真、夜の風景を織り込み制作している。前橋郊外では今でも多くの桑を風景の中に見つけることができる。この地域でかつて製糸のための養蚕が行われていた名残であるが、今回展示を行う臨江閣やその他の歴史的遺産と違い、ほとんど顧みられることもなく本来の目的からも切り離された、ただの風景の一部として存在している。

織り込まれた収蔵写真は、かつて養蚕を営んでいた我が家に残されていたものだが、今ではそこに写る者が誰なのかも特定できずにただ保存されている。一方、夜の風景では、桑の木周辺の路上の光などが昼の風景と織り込まれることによって写真上の穴ようになり、空虚な感じさえる。過去と現在とをつなぐことの困難な記憶は時間の経過とともに薄れ、忘れられていくだろう。

今回の作品では同じ地域に存在している二つの画像を重ね合わせることで、別のイメージを生み出せないかと考え制作した。そこで出現するイメージはそれぞれに判別しにくいものであるが、現在そして過去の記憶がモザイク的に混在する郊外の景色に近いのかもしれない。



小泉 明郎 (1976 年生)

私の父は絵を描くタイプの人間ではありません。その父が、子供だった私に B-29 の絵を描いてくれたことがあります。自身の幼少期の記憶をひも解くように「こう翼が長かったな・・・」と言っていたことを思い出します。

父にもう一度 B-29 を描いてもらいました。その姿を撮影し、その音を録音しました。



狩野 仁美 (1983 年生)

頑丈な四角い木箱。この箱はいろいろなモノに対する「観念」の居場所のようなもの。そして、そこにぎっしりと詰まった砂。ロープを引いて箱を持ち上げる。砂は私の想像を超えて崩れ落ちる。物質とその物質に対する観念の解体を通して、何か今までとは違う新しい意識の広がりが見える。幼少の頃、すべての出来事がこの新しい広がりを与えてくれたように。冬の強い風、流れる川、そして大きな山。すべてが前橋で広がっていった。



中島 佑太 (1985 年生)

《観月記 (かながつき)》は、前橋や東京、福島などで集めた〈月にまつわるたわいのない話〉をラジオ放送する作品です。どんなに社会が変わっても、月が空に浮かぶ様は変わりません。しかし、月の光の見え方は私達の意識を反映して変わっていきます。月の光のようにぼんやりと日々繰り返される私たちの日常会話は、こうした変化をどのように浮かび上がらせるのでしょうか。あなたもリスナーからのお葉書を投稿することで〈月にまつわるたわいのない話〉に参加しませんか？



ラジオのしくみを使って、まちなかをつないでいく



## 開局！ 街中ラジオ ハイスクール

### Data

【事業名称】美術館イベント Vol. 15「開局！街中ラジオハイスクール」  
 【主催】前橋市  
 【開催日】平成 23 年 11 月 23 日（水・祝）  
 【時間】13:00～16:00  
 【講師】中島佑太（アーティスト・前橋市収蔵美術展出品作家）  
 【集合場所】ミニギャラリー千代田  
 （前橋市千代田町 2 丁目 8 - 12 中央通りアーケード内）  
 【会場】黒田人形店前  
 【対象】市内在住、在学の高校生

コミュニティ FM を使った活動を展開しているアーティスト：中島佑太さんと一緒に、商店街の店先に 1 日限定のラジオ局を開局し、高校生などが商店街の人との交流を通じて番組制作をおこないました。自分たちの番組を作りながら、アートのさまざまな表現の方法に触れる機会となりました。



中島佑太氏からワークショップ内容の説明



今回使用するラジオの周波数は FM 87.4 メガヘルツ



どの場所までラジオの電波が届くのかを確認してみる



近隣のお店への広報とネタ探し



商店街のお店も周波数を合わせてくれています



商店街でのコミュニティラジオ局 開局！



放送中に流すジングルづくり



参加者各自がつくった作品も放送中に流していました



これからの社会にふさわしい新しい美術館のありかた  
——創造のためのつながりをつくること

## シンポジウム 美術館をかたる

### Data

【事業名称】美術館イベント Vol. 16 シンポジウム「美術館をかたる」  
【開催日】2012年1月14日（土）入場無料  
【会場】前橋市民文化会館 小ホール（前橋市南町3丁目62-1）  
13:00～15:00 セッション1「美術館の新しい役割」  
15:30～17:30 セッション2「広がる美術館の利用方法」

テイトモダン（ロンドン）の開館時の館長をつとめ、香港に新しくできる美術館の準備に着手しているラース・ニッティヴさんと、大原美術館や資生堂ギャラリーなどのアドバイザーでもあり、様々な展覧会を手がけられてきた岡部あおみさんに基調講演をいただき、さらに演劇や音楽、映画、食など幅広い分野に通じたパネリストと、美術館の新しい役割について議論をしてもらいました。国内外の先進事例に学ぶ機会になりました。

### セッション1「まだ美術館が試みていないことは何か」

基調講演 ラース・ニッティヴ（「M+」西九龍文化地区エグゼクティブディレクター [香港]）  
パネリスト：ピーター・バラカン（ブロードキャスター）・逢坂恵理子（横浜美術館館長）  
進行：永井多恵子（公益財団法人せたがや文化財団副理事長、演劇ジャーナリスト、元NHK解説員）



The **M+** lead words are Excellence and Access!

- A museum is the place where the art, design and other aspects of visual culture meets the audience
- It should be uncompromising in how to realize the creators' intentions
- It should optimize the public's access and interaction with the art and design – friendly, welcoming and respectful

ラース・ニッティヴ

「美術館というのは、**まず二つの大きな異なるグループを対象にしている**っていうことだと思うんです。まずひとつは、アート作品、もしくはその作品を制作した作家が意図したものを実現するための場所でないといけない。作家が意図していることを実現するために、妥協しないで、そういったものが実現できるような場所でないといけない。けれども同時に、そのアート作品を見に来る人達、美術館に来る人達のための場所でないといけない、ということが重要だと思います。

それで、その二つを両立させるということの重要性ですけれども、もちろん、それは美術館を訪れる人達が作家や作品のためだけに美術館があるんだ、という風に思わせないこと。つまり、**自分たちのためにも美術館があるんだ、という風に感じてもらえるような施設作り、もしくは雰囲気作り**というものが必要だと思います。リラックスして、アート、美術を鑑賞して楽しんで、そして同時に例えば良いレストランやカフェがあればそこでお茶を楽しむということ、何か、その堅苦しいルールにとらわれないで、**自分たちが思うような形で、行動できる雰囲気作りが重要**だと思います」

逢坂恵理子

「そういったことを可能にするためには、背後に経済的なこととか、制度上のことなど色々なことが必要であるんですけども、やっぱり、一番大切なのは、そこで働いている人達が、生き生きと新しいことに挑戦できるような、自由な雰囲気だと思うんですね。・・・まず、美術館が、今の時代に合うような色々な状況を取り入れて、変化していくことを受け入れることができる環境を作るとしたら、**その背後にある制度、それから、そこで働く人達の意識が自由であることはとても大切な**、と思います」

ピーター・バラカン

「社会の役に立つ——逆に言えばね、美術のない社会は砂漠のようなものだと思うんですけどね。だから**美術に接する場を作る**っていうのは**社会の不可欠な要素**だと思います。だからそれをどのように人に伝えるかですよ。東京都写真美術館の評価委員会に入ってる時に、いろいろと美術館の内部の評価を見て我々がまたそれについて反応するっていうような会議を毎年やってたんですけど、広報はいつも厳しい点をつけてたような気がするんですね。せっかくなさぐさいい企画を持ってるんですけど、その**やってることをどうやって人に伝えるか**、それがきわめて大きいと思うんです。だからその美術館とメディアの人たちとの関係のこともあるし、とにかく伝えなきゃいけないということが大きいと思います」



セッション2「脳から脳へ」

基調講演 岡部あおみ（美術評論家）

パネリスト：金丸弘美（食環境プロデューサー）・鈴木芳雄（美術ジャーナリスト、元雑誌「BRUTUS」副編集長）進行：永井多恵子



岡部あおみさんのレクチャーから・・・

「アクセスとソーシャル・インクルージョンですけれど、都会の真ん中にある美術館でもなかなか行かない人たちもいる。幼いお子さんがいる女性であるとか、困難を抱えている高齢者であるとか、引きこもりの児童、青少年、それから一番やっぱり遠い位置にいるのが視覚に障害がある人たちですね。あとは聴覚や知的な障害を持つ人たち。外国の人、移民の方々、もちろん遠くに住んでいる人たち、若者もなかなか美術館という行きにくいところもあるので、そういう人たちが、どうしたら行けるのか。というようなところから発想していく必要があるのではないのでしょうか」

鈴木芳雄

「学校単位の美術部の活動とは違ってね、その地域とかその美術館に行く人たちの、なんか学校を横断した組織みたいなものをやろうと思うと、それが美術館だったら可能じゃないですか。そういうような機関になれるかっていうか、なってほしいなっていうのはありますよね」  
「一番大事なのは、なんていうか、即効性を求めちゃだめだと思うんですよ。じわじわと、何年か経って、あれ、これってなんだっけ？とかこれ覚えてるよというような、そういう、蓄積して、いつか蓋が開けばいいなって思わないと、美術館行ったんだから、明日までに感想文をかいて提出しなさいとか言うから、美術館が嫌いになっちゃうんですよ。なんか一個だけでも覚えておいてって言って、そうすると、あれなんかこれ昔もみたことあるぞっていうのとか、知ってる知ってるっていうのとか、これ好きだったっていうので、いいんじゃないかって思うんですよ」

岡部あおみ

「私は日本にいる人は、ものすごくたくさんいいものを見てと思うんですよ。かなり視覚的水準が高いんじゃないかと思うんです。でもなにか新しいものに関して、だからそれは現代アートとか、分からないものに対してはつい引いてしまうところがあったりと思うんですね。だからそういうものも超えていってほしいわけですよ。それは慣れ親しんだものはこれがいいとか、分かりやすい。食べものでもよく食べているものはおいしいとかすぐ分かるけれど、初めて食べたものは分かりにくい。だけれども、やはりチャレンジして新しいものにも

向かっていって、それに関してはやはり慣れてる人たちになんらかの意見を聞きながらでもいいんだけど、やっぱりいいものをたくさん見てほしいと思うんですね。そうすると知らなかった分野のことに関しても、関心が高まって分かってくるように、自分でも判断できるようになってくると思います。それには多少トレーニングみたいなことも必要なので、美術館というのは一つのトレーニングの、学習の場であって、人生について考えることも含めて、いろんな学習のシステムを提供するところだと思っています」

金丸弘美

「僕は地方に行く方が圧倒的に多いので、地方財政は今すごくどこでも困窮してます。それで公的な施設っていうところも財政難で非常に困ってる。地方にお客さんを呼ぶためにはやっぱり総合力だと思うんですね。だから単に美術館だけでお客さんを集客するのは非常に難しい。それで全体に経済が落ちていく状況の中でどう美術館を機能させていくかっていう風な仕組みにならないと、僕はいけないと思ってるんですね」

永井多恵子

「地域の物語の掘り起こしとか地域のつながりとか、今一番言われてる、地域同士がつながりを持つっていうようなことも、結果として出てくるのかもしれませんが。美術館はその一つのツールなのかもしれません。新しいミュージアムができて皆さんもいろんな参加の仕方考えていらっしゃると思います。さっき岡部さんからの話もありましたように、目の見えない人も美術を鑑賞するって方法がありますね。今いろんなグループが、美術を前にして目の見える方がその形状を語るんですよ。語って、そして目の見えない人が美術を鑑賞するっていう運動もあります。いろんな参加の仕方があると思いますので、今日最後までお残りになった方それぞれ、どうやったらこの美術館を皆のものにできるのか、自分のものにできるのか、そして地域のつながり、地域おこし、地域の発信っていうことを考えながら、お帰りいただければありがたいかと思います」

参加者の声

「美術館の模型を見せていただき、美術館の姿が見えて嬉しかった。今までの美術（水彩、油絵）の展示だけが美術館だという概念を取り払うことができた。これからの美術館、新しい美術館がどういう方向にいくのかがよく分かった」（60代、女性）  
「アートの知識がある無しに関わらず、作品を見て何か感じられるのだと思った。前橋に住む者として、美術館に積極的に関わりたい。作品が展示されているだけではなく、能動的な施設になるんだと思い、楽しみになった」（40代、男性）  
「大変有意義な時間を過ごすことができました。「農」から「脳」まで・・・たくさんの視点があり、おもしろかったです。『建物がないからこそ始められること』を実践されている前橋市の活動が素晴らしいです。刺激と元気をもらいました！おつかれさまでした」（20代、女性）  
「前橋市ではめったに聞けない人の話を生で聞けたことに感謝しています。この勢いを止めずに、このまま美術館を運営して欲しいと思います。今日の話をぜひ生かしてください」（20代、男性）  
「美術館は必要だと思う。絵や芸術のどこが良いかは分からない素人だが、なんとなくでもいいから、『これきれい』とか『波長が合う』などの体験をすることがよいと思う。問題は広報やPRだと思います。人から人への伝達が一番大事だと思う」（40代、男性）

いつもの生活や日常のなかにアーティストがいる



## アーティスト イン レジデンス

### Data

【事業名称】アーティスト・イン・レジデンス

【期間】

照屋勇賢

平成 23 年 2 月 28 日～3 月 31 日

ベ・ヨンファン

平成 23 年 8 月 14 日～8 月 27 日、

10 月 2 日～10 月 12 日

### アーティスト・イン・レジデンスとは？

アーティストが市内に長期滞在することで、地域の人々と交流しながら、歴史や文化に触れてもらい、アートプロジェクトや作品制作のための調査や企画を考案、あるいは実際に作品をつくってもらいます。

前橋市の取り組みでは「地域との交流」と「創造型の発信」のふたつを軸にしています。招聘アーティストについては、地域のことをよく知ってもらったうえで、美術館のさまざまな事業へ参加してもらうことで継続的な関係性をつくることを目指しています。

#### ◎地域との交流

展覧会や講演会などイベント型の事業とは異なり、眼に見える成果だけでなく、日々の調査や交流のなかで創造的なものの見方に、商店街の方々、教育機関等、伝統産業に携わるの方々、地域のアーティストや市民が触れる機会をつくります。

#### ◎創造型の発信

多くの場合、地域に根ざした作品制作には長い時間を要するので滞在期間中に完成を目指すのは難しいですが、前橋の歴史や文化を反映させた地域のアートプロジェクトや作品制作の実施へ向けたアイデアを提案してもらい、将来実現させることで地域の文化的な発信力を高めます。

### ①照屋勇賢（てるや ゆうけん）1973 年、ニューヨーク在住

1996 年、多摩美術大学油絵科卒業。2001 年、ニューヨークのスクール・オブ・ビジュアル・アーツ修士課程修了後、ニューヨーク、ブルックリンを拠点に活動をおこなう。

沖縄の伝統工芸である紅型を使用した《You-I,You-I( 結い、結い)》は、色鮮やかな着物に、良く見ると沖縄の海をジュゴンと米軍のヘリコプター、あるいは戦闘機やパラシュート兵、さらに菊の花や色鮮やかな鳥が描かれている。

また、代表作である《Notice - Forest (告知 - 森)》は、マクドナルド等のファーストフード店や、ティファニー等の高級ブランドの紙袋の表面に切り込みを入れ、袋の内側に木をつくる作品である。これは、紙袋が作られる原材料である木を再生させることで、静かに消費社会への警鐘を鳴らした作品である。

2005 年には「横浜トリエンナーレ」で注目を集め、2006 年春には「第 12 回バンガラディシュ・ビエンナーレ」に日本代表として参加し、その後アジア・パシフィック・トリエンナーレなど、海外の国際展でも活躍し、2007 年にはアジア・ソサエティー（NY）にて個展を開催している。



《Notice-Forest (告知 - 森)》  
(McDonald's paper bag)、2005 年

《You-I,You-I( 結い、結い)》、2002 年

### ★活動内容

2011 年 2 月 28 日から 3 月 31 日まで、市内のアパートに滞在をした。これまでの作品のプレゼンテーションを 3 月 4 日にしてもらい、市内を探索しながら歴史や文化に親しんでもらう。

3 月 11 日に東日本大震災が発生することで、一時期活動が中断する体験をしたことが大きな出来事だった。その後、地元のアртиストたちが芸術活動を通してどういった復興への貢献が出来るのかなどを議論する場にも参加した。

3 月 25 日には美術館の設計者である水谷俊博氏と建設予定地を見学した。3 月 30 日に、滞在中に考えたこと、経験したことを、交流を通じてお世話になった方々をお招きして話をしてもらった。

その内容を踏まえて、現在は新しい美術館に設置できるような作品の提案を実現できるか検討している。





★照屋勇賢による作品構想案メモ

●個人のポートレートを描く星座

市民の顔や身振りの特徴を星座に置き換える。その星が輝く夜空をみるためのプラネタリウムのような道具を作成する。児童文化センター等の施設と協働制作が必要になる。

●標識絵画

日常の風景のなかに、交通標識のような普段と違う視覚的なデザインを導入させる。道路沿いに立てる標識を5－6本立て、順番に見ていくと何かの物語に気づく。けやき通りに設置できるとよいだろうか。

●地域に分散設置する詩（言葉）

美術館を含む、街のなか数箇所に、人々を勇気付ける詩のような言葉を点在させる。よく見ないと気づかない方法で注意力を喚起する。

●浮き輪

救助用の浮き輪のように役割が明らかなものを、あえて水辺ではないところに置くことで、誰かが自分を救う、あるいは自分が救う、という考えを喚起する。

●美術館デザインへの市民参加

地域の伝統工芸品（提灯）などに市民が名前をいれて持ち寄り、それを建築デザインに活かす。

●屋上庭園

前橋には人が集まる広場がない。赤城山や夜空を眺められる駐車場屋上を開放的な広場に変える。

●《自分ができるところを》Minding my own Business



この作品は、滞在中に今回の東日本大震災を体験した照屋さんが、被災者の方へのメッセージとこの記憶を忘れないようにするために急遽創作し、前橋市に貸与してくれたものです。この作品を前橋に残したいと考えた市民の集まりが「未来の芽 里親プロジェクト」を開始しました。これは、市民が小額で作品の共同購入に参加できる仕組みで、将来美術館に作品を保存してもらおうというものです。そして、照屋さんは集まったお金を復興支援の活動をしている団体に寄付することにしています。

同プロジェクトウェブサイト：

<http://www.miraime.jp/>

②ペ・ヨンファン BAE Youngwhan 1969年生まれ、ソウル在住

彼の代表作は、大衆の間でよく知られた「ポップソング」を韓国の社会的な記憶と結びつけて表現する作品である。例えば、ガラスや薬のケースなど、精神的な脆弱さや病を示唆するような素材で歌の歌詞を形作る作品。あるいは、ギターが複数接合され、音が重ね合わせられる感覚を視覚によって表現する作品もある。民主化運動や若い世代の心を、どれも繊細で美しい表面の加工を施しながら表している。

また、近年は小さなガラス張りの図書館を公共空間に設置するプロジェクトなど、地域の中に入り込んで実施するタイプの仕事をおこなっている。

2005年にはヴェネツィア・ビエンナーレの韓国館の代表にも選ばれ、国内外で幅広く活躍しているアーティストである。



《The Way of Man – First Love 3》2007年



《Library Project 来日 (Tomorrow)》2009年

★活動内容

2011年8月14日から10月15日（※ただし8/30～10/1は大学業務のため一時帰国）まで滞在をした。これまで作品は国内の美術館などで紹介されたことはあったが、はじめて日本を訪れたので、生活環境などにも慣れてもらいながら、前橋の歴史や文化を知ってもらおう。生糸産業などの歴史から、日本の戸建て住宅のデザインまで幅広く関心を持ち、関係者に話を聞いて回る。

変化していく街の風景を個人的な視点から撮影する試みに関心を持ち、目的もなく散歩する犬と飼い主がカメラを装着したときに捉えられる映像制作の実験をおこなった。普段見慣れた街が、視点の高さの違いや、無意識に撮影されるため異なる表情を見せる面白さがあった。

また、福島県いわき市の沿岸部を訪れ、被災地の状況を見たあと、その体験をもとにした作品制作の案も考え出していた。その後、10月7日には滞在中の経験をもとに今後制作にかかれそうな作品の提案を、交流した人々や関係者に発表した。



★ペ・ヨンファンによる作品構想案メモ

●絹の川

船の上に前橋の人々が住む家のかたちを再現し、かつての糸をつかった装飾を加える。広瀬川にそれを流し、周辺の街の風景を映像で撮影する。

●世界の文字、危機の文字

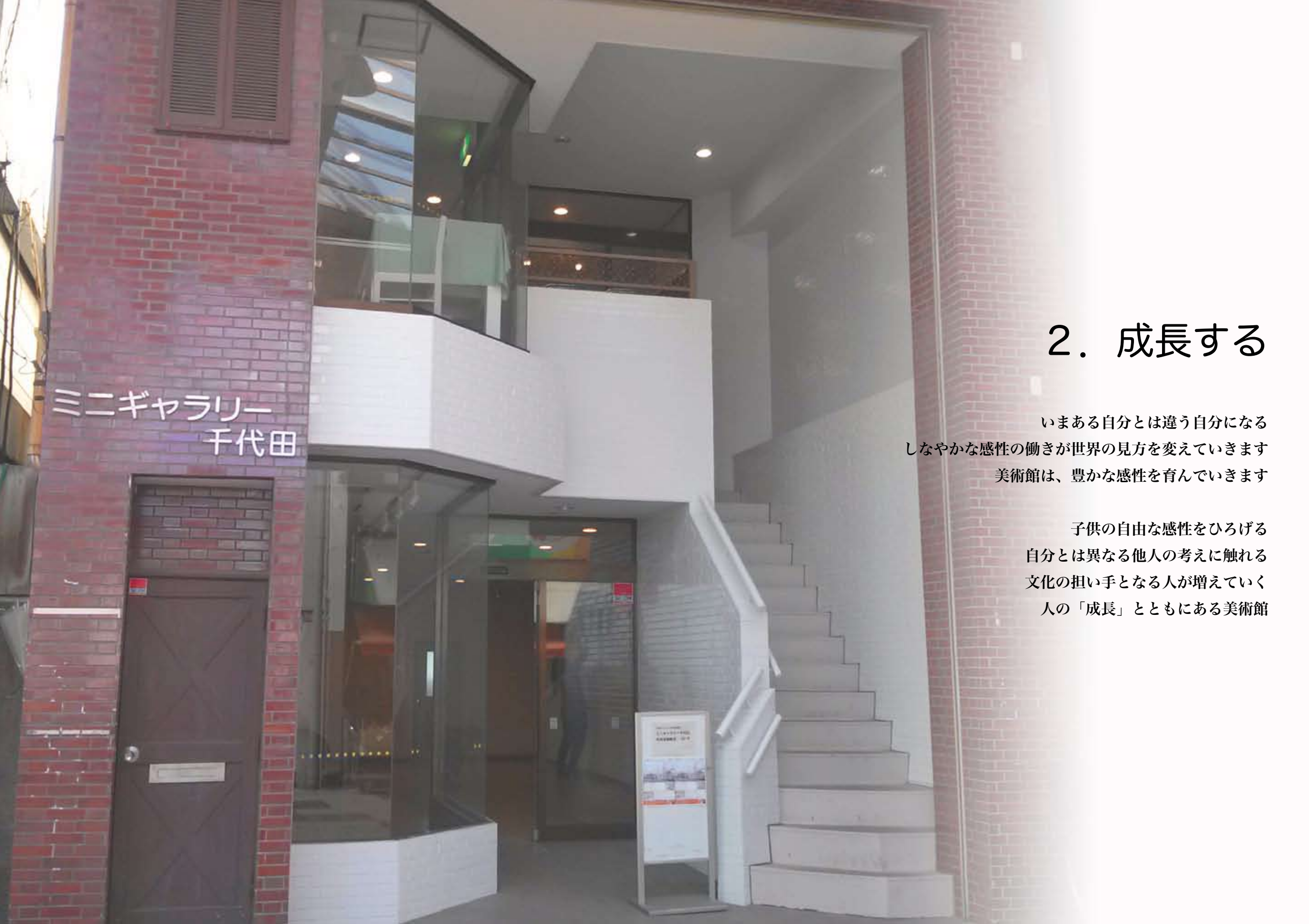
萩原朔太郎が生まれ、詩人を多く排出した街として言葉に意識を持ってほしいと考え、とくに漢字のような象形文字が現在消えつつあるので、そうした文字を大きく壁に張り出し、デザインをする作品のアイディア。

●散歩プロジェクト

滞在中に実験をした散歩中の風景を撮影する映像。家族や親子など親密な関係の人同士が参加できることで、風景のアーカイヴとする。ふたつの映像を通して、自分とは違う他人への配慮やコミュニケーションなどが感じられるところも特徴である。

●トゥモロー・ライブラリー・プロジェクト

気軽に自分の好きな本に囲まれて過ごせる空間を、コミュニティから外れてしまうような子供が利用できる場所に設置する。移動可能なコンテナを地域の人が好きに装飾して、子供が漫画を読んだりしながらゆっくり過ごせる空間にする。災害の被災地にも持っていける。



ミニギャラリー  
千代田

## 2. 成長する

いまある自分とは違う自分になる  
しなやかな感性の働きが世界の見方を変えていきます  
美術館は、豊かな感性を育てていきます

子供の自由な感性をひろげる  
自分とは異なる他人の考えに触れる  
文化の担い手となる人が増えていく  
人の「成長」とともにある美術館



さまざまな人や情報が集まる まちなか交流拠点



## ミニギャラリー千代田 市民活動拠点

### Data

美術館建設予定地である中心市街地において、前橋市における美術館構想の活動をより市民に近い場所で展開していくことなどを目的に、平成 23 年 7 月から中央通り商店街に隣接しているミニギャラリー千代田（前橋市千代田町 2 丁目 8-12）2 階部分を「市民活動拠点」として運営しています。

芸術分野や前橋という地域についての資料、書籍・雑誌などを閲覧できるスペースと打ち合わせスペースを併設しており、さまざまな情報に触れ、自主的な市民活動に活かせる場として市民活動拠点に興味のある一般市民の方々や、学生を含む数多くのサポーターが運営に携わっています。

1 階部分については無料で利用できるミニギャラリーとして貸出をおこなっており、市民による芸術文化活動の発表の場、美術館プレイベントの会場として活用しています。

#### 運営日

毎週火、水、木曜日 13:00 ~ 17:00

（上記の曜日が祝日の場合、年末年始、ほか臨時休業日は除く）

※中心市街地のイベントにあわせて、運営日以外の曜日に臨時オープンします。

### ミニギャラリー千代田 2 階 市民活動拠点



美術に関する図書や雑誌、全国の展覧会やアートプロジェクトの情報をることができます。



#### 七夕飾り制作

中心市街地で開催される七夕まつりにあわせて、3 大学（群馬大学、前橋工科大学、群馬県立女子大学）の学生サポーターが七夕飾りの制作をおこないました。



## ミニギャラリー千代田 市民活動拠点 運営スタッフ

現在、市内近郊の3大学の学生（群馬大学、前橋工科大学、群馬県立女子大学）と、美術館イベントの活動に興味のある一般市民の方々が運営スタッフとして関わっています。

### ◎主な活動内容

- ・美術館プレイベントに係る業務
- ・蔵書整理・データ入力
- ・広報発送作業
- ・前橋アートコンペライブの運営 など
- ・ワークショップ制作補助



運営のお手伝いをしてもらったり・・・

事務仕事もこなしてもらっています



「彫刻 1,000 体ツクルンジャー」ワークショップ看板制作

## アーティスト・イン・レジデンスの活動拠点として

アーティスト・イン・レジデンス招聘作家の照屋勇賢（2010 年度）、ペ・ヨンファン（2011 年度）は滞在中、頻繁にミニギャラリー千代田を訪れ、作品制作の場として利用しました。

また、ミニギャラリー千代田 2 階では滞在中に制作した作品や今後の作品制作に関するプレゼンテーションをおこないました。



照屋勇賢 作品プレゼンテーション



ペ・ヨンファン 作品プレゼンテーション



私たちがそれぞれの方法で美術館を位置づけ、関わっていく方法を考える

## トーク 美術館をつくる

### Data

【事業名称】美術館プレイベント Vol. 2 トーク「美術館をつくる」

【開催日】

平成 22 年 12 月 11 日（土）「美術は誰のモノ？」

12 月 18 日（土）「未来に美術館を残す方法」

美術館が入る予定の同じ建物の 3F にあるシネマまえばしとの連携事業。美術館の改装工事をめぐって、館長、地域住民、建築家、政治家などの姿を追うドキュメンタリー映画「ようこそ、アムステルダム国立美術館へ」を上映したあと、政策研究者、美術作家、ライター、飲食店経営者、社会福祉士など様々な立場のゲストがこれからの美術館について語り合いました。

## 平成 22 年 12 月 11 日（土）「美術は誰のモノ？」

ゲスト：小竹裕人（群馬大学社会情報学部准教授）

中島美江子（朝日ぐんま記者）

椿昇（アーティスト）



政策研究が専門の小竹裕人さん（群馬大学社会情報学部准教授）が政策合意にまつわるいろいろなエピソードをあげながら進行役をつとめてくれた。中島美江子さん（朝日ぐんま記者）の、地域に住む市民の感覚を代弁するような意見に、大きくうなずく観客も多かった。そして、アーティストの椿昇さんが、地域と関わるプロジェクトの豊富な経験をもとにアートが持つ可能性をポジティブに語る姿は会場を共感の渦に巻き込み、最後は美術館ができたなら「友の会」の会費に 1 万円払ってもいい人いますか？と聞くと、数十人が手を挙げるほど。3 人の率直な語り口がとても気持ちよかった。

## 平成 22 年 12 月 18 日（土）「未来に美術館を残す方法」

## 参加者の声

ゲスト：内山恵子（社会福祉士）  
 山重徹夫（中之条ビエンナーレ総合ディレクター）  
 斎藤陽一（前コン実行委員会会長）



社会福祉士の内山恵子さんは「前橋市における美術館基本計画検討委員会」委員でもあるので、これまでの準備の経緯を分かりやすく説明してくれながら、ほかの二人や来場者の人から話を聞きだしてくれた。山重徹夫さんは総合ディレクターをつとめる中之条ビエンナーレがどうやって地域に支えられているかを詳しく説明し、これまでの権威主義的なアートとはまったく違い、柔らかに地域に浸透していく方法を紹介してくれた。そして、渋川出身ながら、自らの飲食店を営むだけでなく、若い世代の力で様々なイベントを成功させている斎藤陽一さんの熱い前橋への熱い思いも炸裂する。まったく立場は違う3人から、美術館を長く地域に根付かせるためのヒントをもらえた。

「非常にあけっぴろげな感じの話が聞けてよかった！新しい想像のきっかけになりました。」

「なんだか、元気が出ました。どこに予算をつけて、どこに重点を置くのか、どんな美術館を作って、なおかつ前橋市みんなが潤っていけるのか。わくわくしました。こんな機会はたぶん二度とないので、市民として積極的に関わっていきたいと思いました。」

「アーティストの意見を生で聞けたのが非常によかった。話の内容も分かりやすく、楽しかった。」

「映画で共有された対話の世界、創造的な時間。椿さんのお話に刺激を受けました。リアリストとしてのスタンスも分かりやすく噛み砕いてお話し下さり、参加された皆さんも積極的に加わっている面白い企画でした。」

「市民の人たちがさまざまな活動をされている話が聞けて、面白かったです。」

「大変良かったです。税金を使わず、人に押し付けず、市民一人ひとりが自発的に活動できる市が望ましいです。」

「今日は映画をみるつもりで来ましたが、思いがけず参加できて良かったです。美術館ができるうわさは聞いていたのですが、普通の美術館では先が見えているだろうなとは思っていたので、今回いろんな話を聞けて良かったです。」



みんなで大作に挑戦しよう。——子どもたちの目に映る空はどんな色？



## 空に雲を描こう！

### Data

【事業名称】美術館プレイベント vol. 5 空に雲を描こう  
【開催日時】平成23年3月6日（日）  
13:30～16:00  
【講師】須藤和之（前橋市収蔵美術展 コレクション+ 「風景の裏側」 出品作家）  
【会場】前橋プラザ元気21・中央公民館42アトリエ  
【主催】前橋市

### 参加者の感想

#### 【保護者の感想】

- ・子どもが生き生きと絵を描いていた。
- ・市民、特に子どもも楽しめる企画を充実させてほしい。
- ・大変楽しく参加させていただきました。学校では触れられない画材や手法などを学べてよい体験でした。
- ・参加人数に制限があるので、参加したくてもダメな場合があるので、同じような形態のワークショップを複数回、開催していただきたい。

#### 【スタッフの感想】

- ・ワークショップを手伝ったのは初めてだったが、子どもの反応が読めなくて楽しかった。
- ・作家と話すことができたのがよかった。
- ・名札をつけたほうがコミュニケーションがしやすかった。
- ・最後時間がなくなってしまう、片づけをきちんとできなかったが、今後は、子どもたちに片付けまでさせたほうがいい。

### 講師紹介

須藤和之

1981 年 勢多郡宮城村（現・前橋市）生まれ。

2005 年 多摩美術大学絵画科日本画専攻卒業。

2006 年 第3回前田青邨記念大賞展・奨励賞（同2008）

再興第91回院展初入選（同2009、2010）

第62回春の院展初入選（同2007、2008、2009）

2010 年 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復日本画博士課程修了（博士号取得）

現在、日本美術院 院友

### 準備するもの

- ・麻紙（200×300cm）2枚・純楮和紙（63×93cm）20枚・絵具（赤・青・黄・白）
- ・ペンキ刷毛・バケツ・ドライヤー・扇風機・紙皿・農業用ビニールシート（養生用）・養生テープ

### 概要

日本画の画材を体験してもらおうと、麻紙という和紙を使ったワークショップを開催した。縦2メートル、横3メートルの和紙に、刷毛とローラーで色を塗り、「青空」と「夕空」を描いた。その後、和紙を思い思いの雲の形にちぎって、糊をつけて床に雲用和紙を置き、その上に色を塗った2メートル3メートルの和紙を乗せて和紙同士を接着させる。子どもたちは接着するまでの間、和紙の上に座ったり、寝転がりながら待つこと5分。和紙を裏返し、「空」用の和紙に雲が張り付いて、大きな「青空」と「夕空」が完成した。







①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

①ワークショップのはじまりです。  
日本画家の須藤和之さんから、  
きょうの作業の説明をききます。

②まずは準備から。  
縦2メートル、横3メートルの大きな和紙を、  
みんなで協力しながら運びます。

③青空チームと夕空チームにわかれて、  
色塗り開始です。

④刷毛やローラーを使って、  
ダイナミックに色を塗っていきます。

⑤絵の具で汚れた床や足の裏を  
キレイにふきます。

⑥次は、和紙をちぎって雲をつくります。  
どんな形の雲ができるでしょう。

⑦雲の形に切った和紙のにりをつけて、  
床にならべていきます。

⑧雲の上に、色を塗った  
空の和紙を重ねます。

⑨おもしろがわりに紙の上に座ったり、寝転んだり。  
みんなの体温で雲と空をくっつけます。

⑩ゆっくり裏返して完成です。

⑪ふわふわとした雲が浮かぶ  
青空と夕空ができあがりました！！



⑩

⑪





地域のアートの歴史を知る、考える



## アートスクールC 美術をかたる

No.

Date

### 講義ノートより

講師：染谷滋（群馬県立館林美術館館長）

#### 第1回「群馬県展の開催と前橋」

7月29日（金）18:30～20:30

会場（ミニギャラリー千代田）

「戦後の前橋の美術について語るということですが、各回のテーマごとに今にいかすことではじめて意味があると思いますし、今の目からみて、歴史というものはある意味つくられていくということもあるのです。また歴史というほど遠い話ではなくて、当時活躍していた作家が今も生きているという世代のことを話そうとしていますので、現代にすぐつながる話題だろうと思います。」（染谷さん）

初日は講師である染谷さんと受講者のみなさん（陶芸教室経営、弁護士、大学等の教育機関勤務、会社員、児童文化施設勤務、現代美術作家、など）の自己紹介ではじまりました。

第1回の授業は「群馬県展の開催と前橋」というテーマで、県展の誕生から分裂、そしてそこから生まれた群馬美術家連盟についての話などを中心に戦後の前橋の美術の動きについて語られました。初期の群馬美術協会や県展、あるいは連盟展などの重要な展覧会が県立近代美術館の開館にともなって会場が前橋を離れるまで、県民の美術の祭典は前橋で開かれ続けていたこと、県の歴史がそのまま前橋の歴史でもあった時代のお話から「美術をかたる」コースはスタートしました。

#### 第2回「近藤嘉男の美術活動」

8月26日（金）18:30～20:30

会場（前橋プラザ元気21 内中央公民館52学習室）

この回は子供から大人までを対象に幅広く美術教育に取り組んだ画家近藤嘉男の美術活動をテーマに行われました。冒頭は、近藤氏の教え子であり、次回のテーマにとりあげられるNOMOグループの一員であった砂盃富男氏の展覧会の経緯から砂盃の思い出から近藤像を追いました。

子供のための絵画教室「ラ・ボンヌ」は前橋・渋川・太田などにも教室があり、数千人が彼のもとで学んだといえます。大人向けには「近代絵画研究所」（後の「第二紀会絵画研究所」）や「生活絵画実験室（後の「造形ルーム」）等で大学並みの造形理論を教えました。生活絵画実験室での授業はドイツのパウハウスを参考としたものと言われており、中央で活躍していた評論家や作家を招き、実技や講義を通して生活や考えから芸術家を育てようとするものでした。

近藤氏の作品や本人の写真、また当時、生活絵画実験室で使用した指導計画表や教室で使われた資料などをもとに清水刀根との関係や、二紀会のことにも話がおよび授業が進みました。

この回には広瀬川美術館現館長であり近藤嘉男氏のご子息である近藤浩通さんと群馬大学教育学部教授の茂木一司先生も参加され、授業のなかで受講者の皆さんから様々な意見や感想がありました。

「絵画教室のカリキュラムが求めている世界と、近藤さんの作家としての表現の世界が乖離している様にも感じられるのが面白い。」

「カリキュラムはかなりの充実したもので、はたして全部やれたのか。しかも、当時の群馬の風土を考えるとこれだけ進んだことをしていたらなかなか理解されづらかっただろうなど想像します。」

「私の同級生等にも『ラ・ボンヌ』に学んだ者がたくさんいました。近藤さんは前橋の昔の雰囲気を残していた人のように感じます。そうした色々な面がわかって、今回の授業によって近藤さんのことを逆に好きになりました。」

そして、染谷さんも「近藤さんのこうした教育を含めた一連の活動や存在は前橋の芸術文化を育てるといううえでかなり幅広く種を蒔いたといえるのではないかと思います。」と振り返りました。

#### 第3回「金子英彦と群馬 NOMO グループ」

9月30日（金）18:30～20:30

会場（ミニギャラリー千代田）

第3回目の授業は沼田出身の作家金子英彦と群馬 NOMO グループ（砂盃富男、角田仁一、田島弘章、藤森勝次、田中祥雄、など）の全国的な幅広い活動がテーマです。群馬 NOMO グループの一員だった加藤アキラさん、群馬県立近代美術館の元学芸員の藤川哲さんもいらして、当時の読売アンデパンダン展や群馬アンデパンダン展等について、群馬 NOMO グループが街のなかで展示した標識絵画について等、当時の活動の様子や金子英彦氏とやまだや画廊の思い出等を加藤さん自身の活動もうかがいながら授業が進み、様々な質問や感想がかわされました。

・Q: NOMO の名前の理念はなにですか？

・A（加藤さん 以下同）：Non Homo Sapiens（非人類）というのが名前の由来で、古い人間像の否定、新しい人間像をつくるというようなことでした。

・Q: 当時無名性というようなことが、グループでは使われていたのですか？

・A: 無名というよりも匿名性というほうに近いです。

・Q: 標識絵画は誰の発想なのですか？

・A: 金子さんの発想です。1人あたり15～16点つくりました。

・Q: メンバーの人たちと、地域とのつながりはどのようなものでしたか？

・A: 金子英彦さんの穂高の山の絵がとても地方に根ざした非常に地方性のある絵だなと思いました。また、中央からヨシダヨシエなどを呼んだりという試されたけれど、実際に地方での現実是个々の作家が群馬ならば群馬で抱えている自己規制などが働いているとやはり地域性の問題は難問にも直面したのかなと思います。僕は途中から入ったのでその以前の様子は知らないけれど、当時のメンバーに共通しているのは終戦を経験していて、敗戦後、方向性を失い、虚無感をみんな抱えているというかそんな感じがしました。

「群馬 NOMO グループの活動は当時盛んだった前衛運動のひとつとして相当の成果を残したような気がします。しっかりと記憶にとどめておいてほしいと思いますし、いまにつながる活動がそこにありました。今後は個々の作家にテーマをあててなにかできるのかなと思っています。戦後の前橋を見直す為にも群馬 NOMO グループの活動をきっちりと見てみたいと思います。若い人の力も加わってなにか新しいことができたらいいなと思います。」（染谷さん）



## 第4回「煥乎堂のサロン」

10月21日（金）18:30～20:30

会場〔ミニギャラリー千代田〕

第4回目の授業は、明治初年に創業した煥乎堂です。当時の活動の話や煥乎堂関連年表をもとに、受講者で当時を記憶する人にとって懐かしい思い出が語られました。

高崎の呉服などを扱っていた商家の高橋家が前橋に本拠地を移し、父、高橋常蔵の死後、長男の清七が1921年に煥乎堂を株式会社にして経営の近代化を推し進めました。清七はスピノザの思想を援用した「新煥乎堂様式綱領」を作成します。現在も煥乎堂の入り口には「求めるものここ1954年の煥乎堂にあり」というラテン語が掲げてあります。

清七の後に会社を継いだ弟の元吉は萩原朔太郎と交友があり、自身も詩人でありました。1930年に入社した磯貝憲佑は元吉を支えながら戦後の煥乎堂の要となりました。

1954年には、渋谷区立松涛美術館などもてがけた建築家 白井晟一氏設計の新店舗が完成します。現在の煥乎堂の道を挟んで反対側にあった旧煥乎堂は、当時珍しい2階建てで中央のらせん階段を上がった2階にはギャラリーが設けられました。この頃の様子を記憶されている方も参加者にいて、前橋市民の文化的拠点になります。白井晟一が手がけたこの建物は市民に長い間愛され、取り壊しの際は大変惜しまれました。

中央や県展などで活躍する作家の展示を企画し、文化サロンとして開かれた煥乎堂のギャラリーは、その時代の県内の美術文化の拠点として機能しました。特徴としては美術文化だけでなく、文学と音楽と美術が交流したことで、煥乎堂はまさに「開かれていた画廊＝サロン」としての役割を果たし続けました。

文化は行政の仕組みだけでは決してうまくいきません。煥乎堂ギャラリーのサロンは、自由な民間の施設であったからこそ市民の交流を約束する場として機能していたのです。（第4回レジュメより）

## 第5回「ぐんまアートセンターの試み」

11月18日（金）18:30～20:30

会場〔前橋プラザ元気21内中央公民館51学習室〕

第5回目の授業は、「群馬NOMOグループ」のリーダーであり、「やまだや画廊」の経営者でもあった金子英彦が前橋を拠点とした活動を終息させた後に、作家同士で平等で民主的な運営形態を試み、活動をひろげた「ぐんまアートセンター」の6年間にわたる活動についてです。当時のセンターの様子や前橋、高崎の美術活動にふれていきました。当時の趣意書やギャラリー運営報告書、財政報告書、理事会便り等、貴重な資料をもとに検証しながら、受講者のみなさんからは煥乎堂との違いや、美術文化が前橋から高崎に移行していった要因などに質問や話題が集中しました。

・Q: 煥乎堂とは時期が一緒ですが、どのような違いがあったのですか？

・A（染谷、以下同）：煥乎堂は商業的というか、中央の作家を招待したり、県展の先生方が煥乎堂で企画した美術展に参加したりというようなかたちで県内ではオーソドックスなかたちでした。アートセンターの方はもう少し新しいかたちで「写真」「造形」「造園」など幅広い内容で発表活動をしていた。普通の美術に携わる人達とは少し違って、オルタナティブに地域で何かやろうという作家達が集まり、共同で運営・活動をし、その記録を残しています。それは金子英彦さんの蒔いた種が別のかたちで試みられた形ではないでしょうか。

6年間続いたということはすごいことだと思います。その後、なぜ続かなかったかという問いにたいしては、もしかしたら作家達の住居が前橋に集中せず、高崎や他の地域に点在していて作家の所在地と活動の中心が少しずつれたことが、何らかのかたちで関係しているような気がします。

・Q: 県立美術館が高崎にできたのは立地的な問題なのでしょうか。また美術文化が前橋から移行していったようにみえるのは県立美術館が高崎にできたことにも関係するのでしょうか。

・A: 立地的な問題でしょう。現在地はもともと国の土地で軍の火薬工場でした。美術文化が高崎で盛んになったのは、シティギャラリーが高崎につくられたということが大きかったと思います。高崎の作家達が強い団結力で頑張っつつくったギャラリーでした。前橋に美術館をつくらうという話は、戦後まもなくからありましたが、それに関しては当時、前橋の作家達が一致団結することはありませんでした。この種の作家の共同によるギャラリー運営は、全国的にみても珍しい試みです。

## 第6回「前橋の現在、そして未来」

12月16日（金）18:30～20:30

会場〔ミニギャラリー千代田〕

最終回の授業は、全回の過去の活動から現在までの美術活動を通してみえてくる「前橋の現在」について語られました。そしてこの地域の美術の独自性は何か、これからどのようにしてゆくべきか、美術館の役割はなにかといったことを中心に、いつもの受講者に加え、セントポールギャラリーにいた竹内嘉一さんも参加され、皆さんで熱い意見交換が行われました。

白川昌生氏の「場所・群馬」の活動、1993年の「第一宣言」から歴史の創造という領域に踏み込んだこの年9月におこなわれた《木馬祭り》。また、「前橋芸術週間」代表・小見純一氏の活動からは「空間現代美術館 IMOCA」や旧前橋広域消防本部庁舎を拠点としたプロジェクト。前橋の百貨店などの移り変わり、文化施設など生活に密着した身近な歴史や「中之沢美術館」「イサハイ・ベル・イマージュ美術館」「北関東造形美術館」「ハラミュージアムアーク」など群馬のアートシーンが次々に語られました。

また、渡辺真也氏の「地域系アートプロジェクトの構造的限界と日本美術界の病」ツイートを参照しながら、現在日本で行われている地域系アートプロジェクトにおいて、東京と群馬、中央と地方。また、日本と西洋・欧米のアートについて、概念や成り立ち、アートにおいての民主主義的なあり方、資本主義的なあり方についても議論がおよびました。「中央とかそういうことではなくて、地方で地方なりのテーマを考えればいいんじゃないか。地方から普遍的なテーマをひっぱりだせばよいのではないかな。そうすれば世界どこにいても中心になってやっていけるんじゃないかな」

「今年の中之条ジエンナーレは街おこしと美術のバランスとして絶妙だったと思います。作品すべてが美術の視点でみたときに、よいというわけではないけれども、街全体としてみたときにとても生きているように見えました。」

染谷さんは締めくくりに、「群馬に来て初めててがけた展覧会『近代美術と群馬』は、今から思うと、群馬の地元作家が地元を描くことには特別な意味合いがあることや、そこをしっかりと見つめ直す必要性があったことを知る。また、群馬を知る、ということになったおもしろい企画だったとおもいます。あらためて、このコース全6回を通して、前橋はこんなにすごいんだな、すごいことをしてき

たのだな、ということに気づき、思い直しています。」と述べました。

「現在、市立美術館への期待が大きなものとなっていることは今さら言うまでもないことでしょう。とはいえ、前橋の美術文化の未来は、市立美術館の存在以上に、私たち市民ひとりひとりの美術への関心と愛情とにかかっていると思えるのです」（第6回レジュメより）

＊コースCでは、各回の議論にはいるところで学芸員の住友文彦がテーマと関連する重要な戦後美術の動向を伝える文章を紹介し、それを参照/比較しながら議論をしました。

＊このまとめは、コーディネーターの後藤朋美さんが報告書に記述した文章を、一部修正して記載しています。



活動を振り返ると、新たな目標が見つかる



## プレイベント 活動報告展示

### Data

【事業名称】プレイベント活動報告展示  
 【開催日時】平成23年8月16日（火）～9月1日（木）までの火、水、木曜の9日間  
 13:00～17:00  
 【会場】ミニギャラリー千代田（前橋市千代田町2丁目8-12）入場無料  
 【主催】前橋市  
 【運営補助】学生サポーター

【概要】  
 昨年開催したプレイベント vol. 5「空に雲を描こう」ワークショップで、制作した作品は、当初の予定では4月から5月にかけて展示する予定でしたが、3月の震災により展示を見合わせていました。7月以降、プレイベント事業が再開したことにとともに、これまでのプレイベントの成果作品を展示しました。ミニギャラリー千代田の1階に作品を展示することで、開設したばかりの2階の市民活動拠点を知ってもらえる機会となりました。

### 展示構成

- ・空に雲を描こうの成果作品2点《青空》《夕空》
- ・「おやこでねじっこ」リフレクションムービーの上映
- ・「広げよう美術の環 彫刻 1,000 体ツクルンジャー」より関口光太郎作品6点
- ・各プレイベントのパネル展示



受付は、市民活動拠点の運営サポートの学生さんに依頼。

「今までのプレイベントについてあまり知らなかったので、作品などを見ることができてよかった」  
 （学生コメント）



3月のワークショップで制作された子どもたちの大作《青空》《夕空》を、ようやく展示できました。お孫さんの作品を見にいらした、おばあさまも・・・。



若い力をあわせて描いた色とりどりのフラッグ。  
商店街に、アートが吹く！



## フラッグアート 2011

### Data

| 【開催スケジュール】                       |                   |
|----------------------------------|-------------------|
| 平成23年                            |                   |
| 参加校募集開始                          | 6月21日             |
| 参加校応募締切                          | 7月 1日             |
| フラッグ生地配布                         | 7月14日             |
| 群大生との作品制作1（市立春日中学校）              | 8月 8日             |
| 群大生との作品制作2（市立大胡中学校）              | 8月12日             |
| 群大生との作品制作3（市立木瀬中学校）              | 8月18日             |
| 群大生との作品制作4（群馬大学教育学部附属中学校）        | 8月19日             |
| 作品提出締切                           | 10月14日            |
| 事前発表会                            | 11月17日            |
| 【時間】                             | 15:30～17:00       |
| 【会場】                             | 前橋プラザ元気21 にぎわいホール |
| 11月22日～平成24年2月28日 作品公開展示         |                   |
| 【会場】                             | 前橋中央通りアーケード       |
| ※2月1日～2月28日まで、会期を延長しました。         |                   |
| 【主催】前橋市・前橋文化デザイン会議実行委員会          |                   |
| 【共催】前橋市教育委員会                     |                   |
| 【協力】中央通り商店街振興組合・前橋中心商店街協同組合・群馬大学 |                   |

### 概要

フラッグアートは、市内の中学校・養護学校の生徒が部活やクラブなどの仲間と力を合わせて描いた115cm×180cmのフラッグ（旗）を前橋中央通りアーケード内に展示するイベントです。平成12年から実施し今年で12回目と毎年恒例の行事になっています。今年のテーマは「風」。さまざまな工夫で「風」を表現してもらいました。全21校からのフラッグが商店街を彩り、道ゆく人の目を楽しませました。

事前発表会



作品公開展示



### 平成23年度参加校

第一中学校・みずき中学校・第三中学校・第五中学校・第六中学校・第七中学校・春日中学校・桂萱中学校・芳賀中学校・元総社中学校・東中学校・箱田中学校・南橋中学校・鎌倉中学校・木瀬中学校・荒砥中学校・大胡中学校・富士見中学校・前橋市立養護学校・群馬大学教育学部附属中学校・共愛学園中学校

### 参加者の声

- 生徒より
  - ・部員全員で協力し、納得のいく作品ができたと思います。
  - ・群大生からもアドバイスしていただき、良い作品に仕上がりました。
- 先生より
  - ・群大生の応援、生徒にとってよい刺激となりました。ありがとうございました。
  - ・あまり共同制作をする機会がないので、良いイベントだと思います。
  - ・“風”をテーマに頂けて、制作の初めからテーマを意識した取り組みができました。



## 群馬大学生との作品制作

市内の中高生にとっては恒例になっているフラッグアート。今回は、美術館構想のコンセプトのひとつである「つながる」をキーワードに、希望校へ群馬大学美術教育講座の学生を派遣し、ともに制作を行う初めての取り組みを行いました。

### 市立春日中学校 美術部



夏休みの学校に、大学生がきた！  
美術教育を学ぶ3人が、目に見えない「風」を絵にあらわす方法を教えてくれます。

「風」って、どんなもの？

みんなで考えてみよう。



風を感じたまま、紙にあらわしてみる。鉛筆で紙の流れを書いたり、立体にしたり・・・。  
形のないはずの風が、形になった！



いよいよ、絵の具で風のスケッチ。  
どんなフラッグになるかな。



### 市立大胡中学校 美術部



大学生がアートの技法を実演。マーブリングやスパッタリング、コラージュなどをいっしょに体験しました。



エアブラシを使って、絵に立体感を出そう。

### 市立木瀬中学校 美術部



カラフルな花畑を描こう。  
どんな色使いがいい？



風になびく長い髪をうまく描きたい！

### 群馬大学附属中学校 美術部



みんなで協力して下書き



大学生が塗り方のアドバイス



若手作家の“いま”の表現を支援するアートコンペティション



## 前橋アートコンペライブ 2011

### Data

#### 審査員

伊東順二  
(美術評論家・富山大学芸術学部教授)



秋元雄史  
(金沢 21 世紀美術館館長)



©CHISATO HIKITA

ヤノベケンジ  
(現代美術家)



【主催】  
前橋市、NPO 法人 前橋芸術週間、前橋文化デザイン会議実行委員会

【後援】  
前橋市教育委員会、上毛新聞社、朝日新聞前橋総局、読売新聞前橋支局、  
毎日新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、産経新聞社前橋支局、  
東京新聞前橋支局、一般社団法人 共同通信社前橋支局、時事通信社前橋支局、  
NHK 前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群馬、J:COM 群馬、  
(株) まえばし CITY エフエム

【協力】 前橋中心商店街協同組合

「前橋アートコンペライブ」は全国から現代アート作品を募集し、新進気鋭のアーティストの発掘と支援、また、表現の場の提供をテーマに年一度開催し、2011 年度で 15 回目を迎えます。  
書類審査を経た最終審査は公開で、審査員と出品者が自由な質問・応答を交えながら、審査員がアートトーク的に作品を批評し、受賞作を決定します。  
歴代受賞者の中には、第一線で活躍するアーティストもあり、若手芸術家の登竜門のひとつとなっています。

#### ◎公開審査

審査日時：2011 年 12 月 4 日(日)午後 1 時から  
会 場：前橋プラザ元気 21 1F にぎわいホール(群馬県前橋市本町 2 丁目 12-1)

#### ◎入賞作品展

平成 23 年 12 月 12 日(月)～平成 24 年 1 月 6 日(金) 15 日間  
【期間中の土日祝祭日、12 月 29 日(木)～1 月 3 日(水)の年末年始休業を除く】  
会場：前橋市役所 1 階 東側ロビー  
展示作品：アートコンペライブ 2011 受賞作品 7 点  
(グランプリ 1 点、銀賞 1 点、銅賞 2 点、審査員特別賞 3 点)

今年度は 358 作品の応募があり、最終審査となる公開審査には 28 作品が選ばれました。

### 公開審査



公開審査風景



公開審査風景



審査員 点数挙げ



合計点数の公表



10 名に絞られた入賞候補者への投票



入賞候補者 10 名



15 回記念 審査員トーク



審査員と出品者との交流会



## 入賞作品展



入賞作品展風景（市役所 1 階東側ロビー）



入賞作品展 作品展示風景

前橋アートコンペライブの入賞作品を広く市民のみなさまに知っていただくために、1998 年の第 1 回目から毎年、入賞作品展を実施しています。  
今年度は市役所 1 階 東側ロビーに展示空間を設け、市役所に訪れた方々が気軽に作品を見ていただけるような展示をおこないました。

## 鑑賞者からの感想

- ・細かい作品は、根気のいるパワーのある作品だと感じた
- ・生の作品に触れられてよかった
- ・小さいスペースなので、見やすくて良かった
- ・ついでに立ち寄れる感じが良い
- ・市役所で展示するのは非常によい
- ・いろいろな作風があって、興味深い
- ・グランプリ作品の染められた色が美しい
- ・入賞していない作品も見なかった

## 受賞作品



グランプリ  
寺村 サチコ （神奈川県）《(1/2)²》



銅賞  
所 正泰 （東京都）《untitled》



銀賞  
風見 規文 （東京都）《「赤い獣が描かれた壁画片」》



伊東順二賞 山田 春歌（石川県）《うみからの脱却》



秋元雄史賞 加藤 崇（神奈川県）《洗濯物》



銅賞  
千葉 麻十佳（北海道）《Untitled》



ヤノベケンジ賞 辻野 裕明（東京都）《prayer2》



### 3. 文化を創る

創造的な表現の数々と人々を  
美術館は出会わせ、その積み上げから文化を生み出します  
新しい表現の試みが、もっと先にいけるように  
後押しをするのも重要な役目です

自分にしかできない方法で「つくる」  
人と人の関係性を「つくる」  
新しい知識や経験を「つくる」  
美術館は地域の記憶から新しい「文化を創る」





身近にあるアートってなんだろう？  
「食えること」の中にも、アートがあります。



# おやこで ねじっこ

## Data

【事業名称】美術館プレイベント vol. 1 おやこでねじっこ  
【開催日時】平成22年11月23日（火・祝）  
14:30～16:00  
【会場】カフェcabo（前橋市千代田町2丁目8-14）  
【主催】前橋市  
【協力】群馬大学教育学部茂木研究室  
【チラシデザイン】鈴木紗代

## 参加者の感想

- ・子どもと楽しく遊べてよかった。もう少し時間に余裕があればよかった。
- ・親子で参加できてとてもよかった。
- ・家族で楽しく参加できた。
- ・子どもとともに初めての体験だったが、とても楽しく参加できた。スタッフの皆さんも明るくてとてもよい雰囲気で進み、あっという間の1時間半だった。

## 概要

地域の特性を活かしたプレイベントとして、健康、自然、食、歴史文化も踏まえたものになるように配慮し、ワークショップ第1弾である本イベントでは郷土の食をテーマに取り上げました。「ねじっこ」とは「すいとん」の方言で、小麦の産地として栄えた粉文化をおしゃれに楽しく体験しようと、小麦粉に食紅を練り込んだ生地を使って、カラフルで造形的なすいとんを作りました。参加者やスタッフはコック帽をかぶり、思い思いの形に仕上げた後、あらかじめ準備していた汁を注ぎ、食事を楽しみました。

## 準備するもの

食材 20 人分（生地：小麦粉、すいとん粉、食紅。汁：しょうゆ、白だし、塩、ニンジン、ダイコン、鶏肉。あんみつ：あんこ）、食品用ラップフィルム、紙皿・紙コップ、プラスチックスプーン、つまようじ、鍋、電気コンロ、穴付きお玉、作業用トレイ、菜箸、付箋、紙製コック帽。





## ワークショップ当日までの流れ

- 10月上旬 茂木研究室にワークショップの協力依頼  
研究室の学生から「ねじっこ」や「焼き  
まんじゅう」など、群馬の食をテーマに  
したワークショップの案が出される。
- 10月13日 第1回イベントは「おやこでねじっ  
こ」に決定。
- 10月21日 ねじっこの試作 1  
ねじっこの生地となる小麦粉、水、食紅  
の配合などを研究
- 10月28日 ねじっこの試作 2  
お汁の味付けや、野菜の切り方を確認。  
デザート用としてあんみつにするアイデ  
アが浮かぶ。
- 11月22日（前日）食材の買出し、器材の借用
- 11月23日（当日）
- 10:00 群馬大学学生寮に集合し、下ごしらえ  
（汁づくり、生地づくり）
- 13:00 ミニギャラリー千代田で最終確認
- 14:00 ワークショップスタート



## 当日の様子

- 14:00 ～ ●会場へ移動（全員）  
用具の確認、テーブルセッティング
- 14:15 ～ ●用具の設置  
食紅を溶く、生地を分ける、制作用トレイの配置など
- 受付開始  
入り口で手の消毒、コック帽の配布
- 14:30 ～ ●マエストロ帽をつくらう  
配布した帽子に、準備しておいたロゼットを  
つける。
- ねじっこづくり開始  
親子で自己紹介、ねじっこの制作手順の説明
- 15:30 ～ ●発表会（1組2分×8組＝16分）  
ねじっこを白皿に並べて、ストーリーを発表、撮影  
汁を注ぎ、食事の準備、残ったオブジェを  
デザート用のあんみつに仕上げる。
- 15:45 ～ ●食事、団らん  
まとめ
- 16:00 ～ ●片付け  
17:00



①参加者は全員、ロゼットをつけたコック帽をかぶり、シェフ気分ワークショップをスタートしました。小麦粉に水で溶いた食紅を練りこむと、ピンク・緑・青などのカラフルな生地が完成。



②次はアーティストとなって、生地を自由に造形します。好きな色の生地を丸めたり、伸ばしたり…。子供も大人も、芸術心が爆発！きのこや動物など、さまざまな色・形のアートなねじっこができあがりました。



③自分の「作品」であるねじっこを皆の前で紹介。作品のテーマや感想をそれぞれ発表しました。なかには、壮大な物語が隠されたねじっこも…。



④最後は出来上がったねじっこに汁やあんこを加えて食べます。アート作品を食べるなんて！でも、自分で作ったねじっこは特別おいしいのです。





全国から集まった素晴らしい知恵とデザインに触れてもらう



前橋市美術館（仮称）  
プロポータル  
コンペティション公開展示

## Data

【事業名称】 美術館 プレイベント vol.3 前橋市美術館（仮称）プロポーザルコンペティション公開展示  
 【開催日時】 平成 23 年 2 月 11 日（金・祝）～ 13 日（日）  
 10:00～17:00  
 【会場】 前橋プラザ元気 21 別館 1 階（旧ウオーク館）  
 【主催】 前橋市  
 【協力】 前橋工科大学

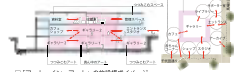
最優秀賞：水谷俊博建築設計事務所

アートリング - アートの二重奏 -

アートでアートをつつみこむ『アート・イン・アート』  
 ～さまざまなシーンで美術体験ができる施設情報～

アートでアートをつつみこむ＝美術鑑賞の機軸として、1階中央部にギャラリー2（資料の1階展示場）を設け、展示機軸をつつみこむことにしました。ギャラリー2は約110㎡の広さがあり、図1「市民が気軽に鑑賞できる場」をくぐると表の図がわかるように記します。アート（資料の1階アート）でアート（市民利用の図）をつつみこむような構成（アート・イン・アート）となります。来場者はさまざまなアートでさまざまな空間・時間を楽しむことができます。このつづみこむ構図は施設全体に連続します。

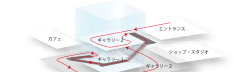
● ギャラリー2を2つのスペースがつつみこむ：1層  
 ● 収容率を管理スペースがつつみこむ：2層



□「アート・イン・アート」の拡張機能イメージ

**施設全体が美術館になる『アート・プロムナード』**  
 ～市民が日常利用できる美術館（アートの散歩道）～

市民にとっては数年前にイギリスが有る美術館。2つの展示空間（ギャラリー1・2）と通廊を有する大きな『アート・プロムナード（アートの散歩道）』により構成し結ぶ。『アート・プロムナード』は市民が日常に利用できる場所であり、また、さらに拡張を想定した大ホールを施設中央の視界でギャラリーへ導いていく空間としてを構築します。市民がアートにふれるチャンスをはかり、美術・創造活動に出会うことであり、人々を美術や美術館の道徳へとつながり結びつけます。

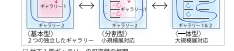
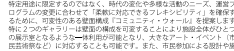


100



アートプロムナードのコーナーからギャラリー2を見渡せる  
プロムナードの広場も展示室として機能する

多様な利用へフレキシブルに対応『コミュニティ・ウォール』  
～市民が参画する未来を託せる～



□ 題下「脂質サブリー」の可食型の製法

**環境への配慮**  
・市全体の環境に配慮し、アートのまちのブランドデザインがつかがるような施設とします。

・コミュニティウォールによりフレキシビリティの高い空間構成が可能のため、適切な居住域空間、都市計画による省エネルギーをおこないます。

●既存建築の大きな吹き抜け（既存エスカレーター部）を活かし自然光を地下まで取り込みます。自然光と人工照明の適切な計画によりLEDの減価をおこないます。

●ユニバーサルデザインに配慮し人々にやさしい建物をします。

□アートのまちのランドデザイン



施設全体が美術館になるイメージ：アート・プロムナードやコミュニティ・ウォールが展示空間や交流スペースを相互に結びつけてゆき、施設全体に賑わいが生まれる。



Figure 1



1



ギャラリー1のイメージ：星の開口やコミュニティ・ウォールの開放により、アート・プロムナードやアート・プロムナードと連結してギャラリー2や1階交流スペースとつながっている。また、既存の窓枠付けによりゆるやかに自然光を地下階まで取り込み、1階のギャラリー2と連結した空間環境をつくっている。

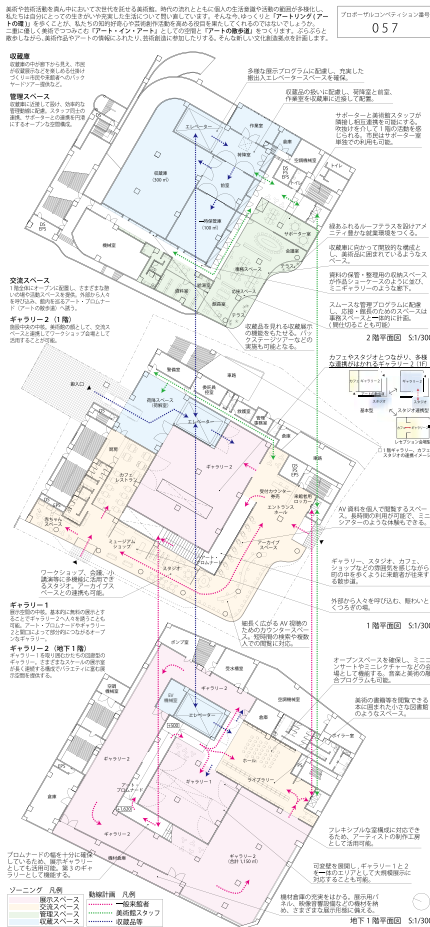
※この表は、平成25年度に実施された調査の結果に基づいて作成されたもので、最新の状況とは異なる場合があります。



同型型に連続していくギャラリー2 (B1F) のイメージ

スタジオ、アート・プロムナードとギャラリー1 (B1F)

ギョウリ-2 (1F) 熱力ファとつながるイメージ



一次審査を通過した5つの案をはじめ、この度のプロポーザルコンペティションに寄せられた数々の設計案約130点を展示しました。



大切なものと向き合いながら、そこから表現を生みだしていく



## 新しい立体造形： 富井大裕 + 照屋勇賢

### Data



【事業名称】美術館プレイベント vol.6 「新しい立体造形：富井大裕 + 照屋勇賢」  
【会場】 ■富井作品 前橋プラザ元気21別館1階（旧ウォーク館）  
■照屋作品 前橋文学館3階お・ア・ナ・ギャラリー・ミニギャラリー千代田で展示

【開催日時】：平成23年7月1日（金）～7月31日（日）

\*なお、照屋作品については、

7月24日（日）までは前橋文学館3階お・ア・ナ・ギャラリー（月曜休館）

7月26日（火）～31日（日）はミニギャラリー千代田で展示

◎富井大裕トークイベント

【開催日時】：平成23年7月31日（日）14:00～16:00 定員30名

【会場】：ミニギャラリー千代田



トークイベントの様子

### 空間や社会と関わるアート

アートは表現者の内面から生まれてくるものであり、それ自体で完結しているからこそ、他との関わりを遮断した白い壁に囲われて展示されるのだ・・・という考えは「近代」に固有のものと言えます。表現者が生み出す作品は、実際には鑑賞者によって見られるうで、その人が生きる社会や、作品が置かれる空間と深く関わっている、という考えのほうが現在は主流となってきています。そうした動向を知ってもらうために、重要な日本を代表する若手アーティストの二人に市内2箇所で作品を展示してもらいました。

多くの被災者を出した東日本大震災を経験したあとで、表現者には何ができるのか考え創られた照屋勇賢の作品。

《自分ができることをする》

新聞紙、2011年





かつては西武百貨店の別館だった美術館の建設予定地。その空間がこれからどう変わっていくのかを予兆させながら、そこでしか成立しないように見える富井大裕の作品。

《hills》  
脚立、合板



《four color carpets (on truck)》  
タイルカーペット、合板、キャスター



《woods#3》  
ハンマー



《clamp and wood》  
クランプ、木材



《必要な言葉（前橋）》  
言葉、カッティングシート



富井大裕（とみい もとひろ）

1973 新潟県生まれ、  
1999 武蔵野美術大学大学院造形研究科  
彫刻コース修了  
第4回アート公募 2000 審査員  
大賞受賞

アーツスペース「switch point」で  
2004年から継続的に展覧会をおこなうほか、  
2008年アーカススタジオ、  
2009年第1回所沢ビエンナーレなどに出品し、  
昨年は国際展「横浜トリエンナーレ 2011」にも  
参加した期待の若手作家

\*すべて 2011 年制作

ワークショップって何？アタマだけでなく、カラダを使って学ぶ。



## Data

【開催日時】平成23年7月～11月  
月1回程度開講・全6回  
【ファシリテーター】茂木一司  
群馬大学教育学部教授 専門：美術教育・ワークショップ学習論  
1956年群馬県生。博士（芸術工学）。鹿児島大学教育学部講師・同助教授、群馬大学教育学部准教授を経て、現職。構成教育  
(Basic Design)、R. シュタイナーの芸術教育などから、身体・  
メディア+学習環境デザイン+アートワークショップ+障害児の  
表現教育に関心を持ち幅広く、実践及び研究中。『協働と表現の  
ワークショップー学びのためのデザイン』（編集代表、東信堂、  
2010）ほか  
【コーディネーター】鈴木紗代、木村祐子、亀井章央  
【会場】中央公民館

ワークショップは、いま、美術館や劇場だけでなく、政治やビジネスの世界でもたくさん行われています。何かを学ぶのに、どうしてワークショップという手法が取り入れられるのでしょうか？ワークショップによる学びは、答えがひとつということがありません。「答えは君の中にある」。そして、それぞれが出した答えを共有し、ちがいを認め合う。このコースでは、さまざまなワークショップを受講生が実際に体験し、新しいコミュニケーションの方法を学びました。

## 参加者の声

- ・頭よりも感覚を使ったコミュニケーションの方が楽しい！
- ・身体がほぐれると心もほぐれるのが不思議
- ・ワークショップというのは自分で感じてやってみるというのがわかったみたいです。
- ・動いて考えて、日頃なかなか出来ない体験させてもらいました！！
- ・ワークショップで学ぶという手法がとても理解しやすくて楽しいです。
- ・相手がいて、わかる。自分のことは相手を通して知る。それに気づけました。

## 概要

第1回、2回（連続）

「Workshop on Workshop- ワークショップって何？ Part 1-」

7月30日（土）9:00～12:00

「Workshop on Workshop- ワークショップって何？ Part 2-」

7月30日（土）13:00～16:00

ワークショップって、何？どうしていま、ワークショップが必要とされているの？ゲストに荻宿俊文さん（青山学院大学教授・ワークショップデザイナー育成プログラム代表）をお招きし、そんな疑問を、実際にさまざまなワークショップを体験しながら考えていきました。

第3回 「ものづくりワークショップから学ぶ」

8月27日（土）9:00～12:00

プレイベント vol.1「おやこでねじっこ」の再検証として、カラフルすいとん作りを行いました。前回とはまた違った、ものづくりを通して郷土の文化や、生活の中の身近なアートを学ぶワークショップ。

第4回「からだで学ぶ」

9月23日（金・祝）14:00～17:00

プロダンサーの勝部ちこさん、鹿島聖子さんをゲストにお呼びして、コンタクト・インプロビゼーションを体験しました。コンタクト・インプロビゼーションとは即興ダンスの一種で、他人と触れ合うことにより生まれる動きを表現するダンスです。ふだん当たり前のようになっている「言葉」や「あたま」を使ったコミュニケーションとは一味ちがった、「からだ」を使ったコミュニケーションを学びました。コンタクト・インプロビゼーションで、頭でっかちな考えをやわらかくすることができるのでしょうか？

第5回「メディア（素材）を通して学ぶ」

10月14日（金）18:30～21:30

郡司明子さん（群馬大学教育学部 准教授）をゲスト講師として、風船や新聞紙など、生活の中に身近にある素材を使って、いろいろなワークショップを体験しました。

第6回「ワークショップの学びをふりかえる」

11月12日（土）14:00～17:00

リフレクション（ふりかえり）はワークショップの学びにとって欠かせない、重要なプロセスです。ワークショップで思ったこと、感じたことを思い出し、また他の人と共有することによって、ワークショップの「楽しい」体験が「学び」となります。



## ワークショップの総合カタログ

### 「Che che ku le」

緊張しているからだところをほぐす、導入のワークショップ。「チェ・チェ・クレ」などと歌いながら踊る輪の中央のリーダーにあわせ、みんなでポーズをとります。最初は恥ずかしがっていましたが、みんな、だんだんと笑顔に！（第1回）



### 「マスキングプラント」

アーティスト・浅井裕介さんの作品からヒントを得たワークショップ。テーマを「美術館」とし、美術館への思いや期待を「種」としてマスキングテープを芽や枝葉のように伸ばしていきます。マスキングテープの植物が育っていくことで、他人の「種」と交わったり、つながっていきます。（第2回）



### 「レゴ」

ブロックのおもちゃ、レゴを使ったワークショップ。楽しかった思い出をレゴでつくり、それを仲間語りします。自分の中の「思い」を表現し、共有する。そんなプロセスを体験することが、これからの多文化共生時代に欠かせない「他者を理解する」スキルをはぐくみます。（第2回）



食紅を練りこんだカラフルな生地で造形物を作り、できあがった造形物で物語をつくります。（第3回）



2人組で両手を合わせて、相手の手の動きに合わせて動かします。慣れてきたら、右手の動きは自分がリード、左手の動きは相手に合わせて動かします（第4回）。



まず、これまでワークショップのリフレクション（リアルタイム・ビデオなど）を見て振り返りました。そして、自分たちの気持ちの変化をグラフにし、それをもとにグループで語り合いました。

（第6回）



2人組になり、立っている相手をもう1人が手で押して動かします。「前に歩く」「横に歩く」「しゃがむ」など、やってもらいたい動きはすべて背中当てた手の力加減のみで伝えます。言葉は使用禁止！慣れてきたら、動かされている方は目をつぶります。相手への信頼がなければからだはゆだねられません（第4回）。



風船、ボール、新聞紙、シャボン玉……。身近なものを使って映像を撮影し、それを逆再生してみるワークショップ。普段の何気ない動きでも、逆転させてみると、新鮮で思わぬものができあがります。（第5回）



ドキュメント・ウォール：ワークショップの記録方法のひとつ。その場で起こったことを参加者のコメントなどとともにリアルタイムで記入していきます。





手を動かしながら引き出された「発想」で自由につくろう。



## 広げよう美術の環 彫刻<sup>センタイ</sup> 1,000 体 ツクルンジャー

### Data

【事業名称】美術館プレイベント vol.11 広げよう美術の環 彫刻 1,000 体ツクルンジャー  
 【開催日時】平成23年8月2日（火）、8月3日（水）  
 10:00～12:30 / 13:30～16:00  
 【会場】前橋プラザ元氣21 にぎわいホール（前橋市本町2丁目12-1）  
 【主催】前橋市  
 【協力】レンゴー株式会社、群馬ヤクルト販売株式会社、寺澤事務所・工房  
 【チラシデザイン】寺澤知美

### 概要

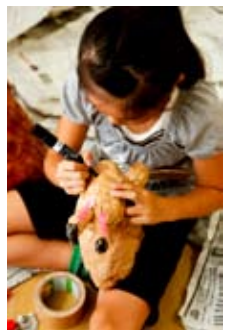
未就学児から小学生、そして大人まで、誰でも気軽に参加できて楽しめるワークショップとして開催したのが、美術館プレイベント vol.11「広げよう美術の環 彫刻 1,000 体ツクルンジャー」です。前橋出身の造形作家・関口光太郎氏を講師に「1,000 体」を目指して、彫刻制作に挑むワークショップで、素材として使うのは、古新聞とガムテープといったとても身近なものです。新聞紙をクシャクシャに丸めながら動物などの形をつくり、ガムテープでとめるという作業を繰り返し、形を整えていきます。10 色のカラーガムテープを使い、動物や昆虫、恐竜など大小さまざまな作品約 300 体ができあがりました。

また、作品画像に作者名、タイトル、コメントをつけて、『コタロニカ大図鑑』としてデータベース化しています。今回のワークショップでは目標の 1,000 体に到達できませんでしたが、今後も希望する小学校などでワークショップを実施して、1,000 体達成を目指す予定です。



今回のプレイベントでは、事前のタイトルバナー準備やチラシデザイン、当日の受付、制作補助、撮影、データ入力などの運営など、20 名のサポーターに協力してもらいました。また地元企業 2 社からも、プレゼント用の飲み物やダンボール資材を提供いただくなど、基本理念の一つ「つながる美術館」を目指して市民や地元企業と連携できたプレイベントでした。

平成24年2月には、本イベントに参加した先生の協力もあり、城南小学校で3年生の合同図工として実施しました。保護者や県立聾学校の児童らも参加して、89 作品がコタロニカ大図鑑に新たに加わりました。



#### 関口光太郎

1983 年、群馬県前橋市にて、グラフィックデザイナーの父と、絵画教室を営む母の間に生まれる。2002 年、多摩美術大学美術学部彫刻学科入学、在学中から、新聞紙とガムテープを用いた彫刻を創作。卒業後、都内私立特別支援学校に就職。2008 年、六本木 21-21 DESIGN SIGHT における「21 世紀人」展に出品。2012 年第 15 回岡本太郎現代芸術賞（TARO 賞）受賞。現在は、美術の先生と現代芸術家の二足のわらじを履く。







①ダンボールと  
ガムテープで名  
札を作ります。



②会場に敷き詰められた新聞  
紙でくれんぼ。



③関口光太郎先生の話真剣にききます。



④新聞紙を丸めて、  
ガムテープをはって  
いきます。



⑤何色のテープを使  
うかな？



⑥完成！！



⑦完成した作品の画像を、  
パソコンに取り込んでい  
きます。



完成した作品は、8月5日から9月28日まで美術館建設予定地である前橋プラザ元氣  
21 別館 1 階（旧ウォーク館）で展示し、通りを歩く市民の方にご覧いただきました。

#### 【参加者の感想】

- ・材料は家にあるものでも、広い会場でこんなに思い切りはできないので、楽しさも倍増です。
- ・子どもの発想力が豊かになったと思う。
- ・親子のコミュニケーションの良い機会になった。



## コタロニカ大図鑑



たけし：  
足が5本あって普通のゾ  
ウより速く走れる！



クサマダラオオコビト：  
コビト。草むらの中に住  
んでいる。



わらい虫：  
見るとついついわらっ  
てしまう虫！



ハネニジロヘビ：  
空がとべて、全部いっ  
きに食べる。宇宙でう  
かんでくらしている。



元気動植物：  
植物のような姿をし  
た不思議な動物。



かめ：  
みずのなかにすんで  
いる。すきなものは？



ガムテドラゴン：  
前橋、元総社神社。



にじ色のくらげと魚：  
にじ色のうみにすんで  
いる。



ドラネコ：  
ねことねずみはなか  
よしです。



カメレオンぞう：  
群馬に生息する鼻の  
長いぞうです。



こわいうちゅう人：  
なぞのうちゅうじん。  
わからないところに  
すんでいる。



かぶとぐも：  
かぶと虫のにおしり  
からくもの糸を出し  
ます。



トマトがえる：  
トマトをふきます。  
さわるとあぶない。



仮面カマキリ：  
仮面ライダーの顔を  
したカマキリ。



いろいろな知識や経験が結びついて新しい場所が作られていく



## トーク 美術館ができる 建築・デザイン・アート

### Data

【事業名称】美術館プレイベント vol.13 トーク「美術館ができる」ー建築・デザイン・アートー  
 【開催日時】平成23年9月10日（土） 14:00～16:00  
 【会場】群馬会館ホール

【出演】  
 水谷 俊博  
 （建築家／武蔵野大学准教授）  
 西澤 明洋  
 （ブランディングデザイナー／エイトブランディングデザイン代表）  
 立木 祥一郎  
 （teco LLC 代表／特定非営利活動法人アトNPO リンク副理事長）  
 住友 文彦  
 （前橋市美術館開設準備室学芸員）

新しい美術館の設計者である水谷俊博さんが、実施設計を終えたばかりの建築デザインについて説明をしました。また、設計者と一緒に美術館のビジュアル・アイデンティティをつくるデザイナーの西澤明洋さんが「キリン生茶」や「COEDO ビール」などのブランディングを手がけた経験を話し、青森県立美術館の準備にかかわり、その途中で「奈良美智＋ graf A to Z」展を成功させ、今は地域活性化のプロジェクトを数多く手がける立木祥一郎さんと共に、美術館ができることで地域がどう変わっていく可能性があるのかについて語り合いました。



水谷さんのプレゼンテーションでは、美術館の特徴として以下が挙げられました。

- 1) 既存の施設のコンバージョン
- 2) 回遊性
- 3) 街にひらかれていること





## 参加者の声

「プレイベント？トーク？って何とって思ってきましたが、自分が暮らしている町の大きな動きなんだということが分かり、とても良かったです」

「美術館ができるための準備として関わる人がトークで自由に意見を交わす現場を見られて非常に興味深かった。楽しかった」

「今のタイミングで前橋に美術館ができることでただの美術館ではなく、いつも刺激と感動がある場所として広がってほしいと思いました」

「建築とデザインを作る方の仕事と顔が見れてよかった。こういう人が美術館を組み立てるんだと思うと楽しみです。建築とグラフィックデザインに期待します」

「行政主導のハコモノになってしまっでは長続きしないし、流行らないと思いますが、今日話を聞いていて、美術館のコンセプトが大事だということが分かりました。私も役所にお任せと思っていましたが、われわれ市民も参加する責任があると感じました」

「美術館ができることで町全体がどのように変わるか、そのような影響を起こしていけるかという視点で構想が進んでいるように思い、大変興味深く感じました」



西澤さんからは、これまで手がけてきた商品ブランディングの事例を紹介してもらい、そのなかから平面的なグラフィックを超えて壁や床、地下鉄のラッピングなど空間のデザインや、音楽イベントの企画まで展開してきた経験を語ってもらった。

立木さんは、使われていなかった赤レンガ倉庫を使った展覧会が、ボランティアの熱い力と知恵、それと地元の産業を巻き込んで大きな黒字を出すまでに至った経緯を臨場感たっぷりに語ってくれた。どちらも魅力的な美術館をつくっていくうえで大いに参考になる話だった。



Ⅱ データ編

● 出品目録

美術館プレイベント vol.4 平成 22 年度収蔵美術展  
コレクション+ 「風景の裏側」

◇前橋文学館 3 階オープンギャラリー

| No. | 作家名    | 作品名       | 制作年       | 出品展         | 素材      | サイズ（縦×横）      | 所蔵  |
|-----|--------|-----------|-----------|-------------|---------|---------------|-----|
| 1   | 南城 一夫  | 赤城山（月光）   | 1948頃 S23 |             | カンバス・油彩 | 54.0 × 91.0   |     |
| 2   | 田中 青坪  | 浅間高原(6)   | 1981 S56  | 第66回院展      | 紙本・彩色   | 181.0 × 97.0  |     |
| 3   | 福田 韶太郎 | 彩る雲（赤城山）  | - -       |             | カンバス・油彩 | 38.0 × 45.0   |     |
| 4   | 中村 節也  | 山頂の雲      | 1956 S31  | 第24回独立展     | カンバス・油彩 | 130.7 × 162.5 |     |
| 5   | 中村 節也  | 暗         | 1960 S35  | 第28回独立展     | カンバス・油彩 | 100.0 × 80.5  |     |
| 6   | 久保繁造   | 時         | - -       |             | カンバス・油彩 | 90.5 × 65.5   |     |
| 7   | 深谷 徹   | とりかごのある静物 | 1952 S27  | 第 8 回日展特選初賞 | カンバス・油彩 | 130.8 × 130.2 |     |
| 8   | 近藤 嘉男  | 作品 A      | 1948 S23  |             | カンバス・油彩 | 162.0 × 130.0 |     |
| 9   | 高橋 常雄  | 春丘        | 1953 S28  | 第9回日展       | 紙本・彩色   | 136.5 × 182.5 |     |
| 10  | 須藤 和之  | 翼の刺繍      | 2006 H18  | 再興第91回院展    | 和紙に岩彩   | 227.3 × 181.8 | 作家蔵 |
| 11  | 須藤 和之  | 空の調弦      | 2006 H18  | 第62回春の院展    | 和紙に岩彩   | 100.0 × 100.0 | 作家蔵 |

◇ミニギャラリー千代田

| No. | 作家名    | 作品名            | 制作年       | 出品展       | 素材        | サイズ（縦×横）     | 所蔵  |
|-----|--------|----------------|-----------|-----------|-----------|--------------|-----|
| 12  | 横堀 角次郎 | 代々木風景          | 1928 S13  |           | カンバス・油彩   | 45.5 × 34.0  |     |
| 13  | 南城 一夫  | 釣り人            | 1976 S51  | 第53回春陽展   | カンバス・油彩   | 33.5 × 45.5  |     |
| 14  | 清水 刀根  | ランプのある抽象       | - -       | 二科展       | カンバス・油彩   | 97.0 × 130.3 |     |
| 15  | 清水 刀根  | 椅子のある室内        | 1962頃 S37 |           | カンバス・油彩   | 91.0 × 65.3  |     |
| 16  | 清水 刀根  | 雪景             | 1952 S27  | 第3回群馬県美術展 | カンバス・油彩   | 50.3 × 60.7  |     |
| 17  | 福田 韶太郎 | 噴水（前橋駅前）       | 1978 S53  |           | カンバス・油彩   | 73.0 × 91.0  |     |
| 18  | 田村 清男  | 老樹のある釣堀        | 1980 S55  |           | 紙本・水彩     | 79.0 × 98.8  |     |
| 19  | 牛嶋 直子  | kingdom(10-02) | 2010 H22  |           | パネル・顔料・樹脂 | 89.4 × 130.3 | 個人蔵 |
| 20  | 牛嶋 直子  | pink dots      | 2010 H22  |           | パネル・顔料・樹脂 | 33.5 × 53.0  | 作家蔵 |
| 21  | 牛嶋 直子  | ground (08-02) | 2008 H20  |           | パネル・顔料・樹脂 | 50.0 × 60.6  | 作家蔵 |

◇前橋プラザ元気 2 1（美術館予定地・旧ウォーク館） ＊建物の外（西側）からご覧いただくことになります

| No. | 作家名   | 作品名                                   | 制作年      | 出品展 | 素材                             | サイズ（縦×横×高）        | 所蔵  |
|-----|-------|---------------------------------------|----------|-----|--------------------------------|-------------------|-----|
| 22  | 今井 由佳 | プロローグ                                 | 2010 H22 |     | 鉄                              | 45.0 × 50.0 × 160 | 作家蔵 |
| 23  | 今井 由佳 | 虚実                                    | 2003 H15 |     | 鉄・布・液体ガラス                      |                   | 作家蔵 |
| 24  | 小泉 明郎 | 僕の声はきっとあなたに届いている<br>（シングルスクリーン・バージョン） | 2009 H21 |     | H Dビデオ<br>インスタレーション<br>・16分45秒 |                   | 作家蔵 |

【特別展示】

萩原朔太郎撮影 立体写真(複製) すべて前橋文学館蔵

- 時鐘の櫓 【前橋市北曲輪町七ー番地（現・本町一丁目ー番地）の家から南を望む】 撮影時期：昭和2年頃
- 堅町通り 【国道17号 前橋市千代田町三丁目付近】 撮影時期：大正末期
- 活動写真通り 【前橋市千代田五丁目銀座通り付近】 撮影時期：大正時代
- 桑町通り 【前橋市中央通り商店街（千代田町二丁目付近 南から北を望む）】 撮影時期：昭和4年頃
- 前橋公園のトンネル 【前橋公園「るなばあく」（前橋市大手町三丁目）】 撮影時期：大正11年頃

美術館プレイベント vol.14 平成 23 年度収蔵美術展  
コレクション+ 「つながる、つたえる」

◇広瀬川美術館

| No. | 作家名    | 作品名       | 制作年       | 出品展        | 素材      | サイズ（縦×横）      | 所蔵 |
|-----|--------|-----------|-----------|------------|---------|---------------|----|
| 1   | 中村 節也  | 煙突のある風景   | 1928 S3   |            | カンバス・油彩 | 61.0 × 73.0   |    |
| 2   | 中村 節也  | 小諸懐古園     | 1948 S23  | 中村節也個展     | カンバス・油彩 | 24.5 × 33.5   |    |
| 3   | 近藤 嘉男  | 作品 A      | 1948 S23  |            | カンバス・油彩 | 162.0 × 130.0 |    |
| 4   | 南城 一夫  | 赤城山       | 1948頃 S23 |            | カンバス・油彩 | 54.0 × 91.0   |    |
| 5   | 近藤 嘉男  | 橋のある風景    | 1950 S25  |            | カンバス・油彩 | 34.7 × 52.3   |    |
| 6   | 川隅 路之助 | 風景・広瀬川    | 1952 S27  | 第29回春陽展    | カンバス・油彩 | 606.0 × 727.0 |    |
| 7   | 横堀 角次郎 | 三四郎池（橋と池） | 1960～1965 |            | カンバス・油彩 | 24.0 × 34.0   |    |
| 8   | 中村 節也  | 猿が京相生橋    | 1968 S43  | 第19回群馬県美術展 | カンバス・油彩 | 76.0 × 46.0   |    |
| 9   | 近藤 嘉男  | 巴里        | 1975 S50  | 上毛美術展      | 紙本・水彩   | 32.0 × 41.0   |    |
| 10  | 清水 刀根  | みかんのある風景  |           |            | カンバス・油彩 | 38.0 × 45.6   |    |
| 11  | 南城 一夫  | 釣り人       | 1976 S51  | 第53回春陽展    | カンバス・油彩 | 33.5 × 45.5   |    |
| 12  | 田村 清男  | 桃木川冬景     | 1981 S56  |            | 紙本・水彩   | 60.8 × 72.7   |    |

◇ミニギャラリー千代田

| No. | 作家名    | 作品名                                      | 制作年      | 出品展    | 素材      | サイズ（縦×横）      | 所蔵 |
|-----|--------|------------------------------------------|----------|--------|---------|---------------|----|
| 13  | 中村 節也  | ハツ橋母子像                                   | 1933 S8  | 第4回独立展 | カンバス・油彩 | 130.2 × 194.0 |    |
| 14  | 清水 刀根  | 撮影                                       | 1933 S8  |        | カンバス・油彩 | 145.1 × 112.3 |    |
| 15  | 近藤 嘉男  | 港のマリア                                    | 1950 S25 | 第4回二紀会 | カンバス・油彩 | 130.5 × 162.0 |    |
| 16  | 福田 韶太郎 | ある祖先                                     | 1962 S37 |        | カンバス・油彩 | 91.0 × 73.0   |    |
| 17  | 久保 繁造  | 或る日                                      | 1979 S54 |        | カンバス・油彩 | 162.0 × 112.0 |    |
| 18  | 中村 節也  | インディアンの子供                                | 1961 S36 | 滞米作品展  | カンバス・油彩 | 45.5 × 38.0   |    |
| 19  | 照屋 勇賢  | Minding My Own Business<br>《自分にできることをする》 | 2011 H23 |        |         |               |    |

◇前橋プラザ元気 2 1（美術館予定地・旧ウォーク館） ＊建物の外（西側）からご覧いただくことになります

| No. | 作家名   | 作品名      | 制作年   | 出品展 | 素材           | サイズ（縦×横×高） | 所蔵  |
|-----|-------|----------|-------|-----|--------------|------------|-----|
| 20  | 狩野 仁美 | mountain | 2008- |     | DVD、砂、木箱、その他 |            | 作家蔵 |

◇臨江閣

| No. | 作家名   | 作品名        | 制作年      | 出品展 | 素材                                        | サイズ（縦×横×高）   | 所蔵  |
|-----|-------|------------|----------|-----|-------------------------------------------|--------------|-----|
| 21  | 木暮 伸也 | 景機 001     | 2011 H23 |     | ｲﾝｸﾞｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾄ、額                          | 80.0 × 120.0 | 作家蔵 |
| 22  | 木暮 伸也 | 景機 002     | 2011 H23 |     | ｲﾝｸﾞｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾄ、額                          | 80.0 × 120.0 | 作家蔵 |
| 23  | 木暮 伸也 | 景機 003     | 2011 H23 |     | ｲﾝｸﾞｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾄ、額                          | 80.0 × 120.0 | 作家蔵 |
| 24  | 木暮 伸也 | 景機 004     | 2011 H23 |     | ｲﾝｸﾞｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾄ、額                          | 80.0 × 120.0 | 作家蔵 |
| 25  | 木暮 伸也 | 景機 005     | 2011 H23 |     | ｲﾝｸﾞｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾄ、額                          | 80.0 × 120.0 | 作家蔵 |
| 26  | 木暮 伸也 | 景機 飯塚      | 2011 H23 |     | ｲﾝｸﾞｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾄ、額                          | 73.1 × 51.8  | 作家蔵 |
| 27  | 木暮 伸也 | 景機 下阿内     | 2011 H23 |     | ｲﾝｸﾞｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾄ、額                          | 73.1 × 51.8  | 作家蔵 |
| 28  | 木暮 伸也 | 景機 東善      | 2011 H23 |     | ｲﾝｸﾞｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾄ、額                          | 73.1 × 51.8  | 作家蔵 |
| 29  | 木暮 伸也 | 景機 中内      | 2011 H23 |     | ｲﾝｸﾞｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾄ、額                          | 73.1 × 51.8  | 作家蔵 |
| 30  | 木暮 伸也 | 景機 下増田     | 2011 H23 |     | ｲﾝｸﾞｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾄ、額                          | 73.1 × 51.8  | 作家蔵 |
| 31  | 小泉 明郎 | “X”        | 2011 H23 |     | ビデオインスタレーション<br>シングルチャンネル・ビデオ、スピーカー、写真3枚  |              | 作家蔵 |
| 32  | 中島 佑太 | 観月記一月を見上げる | 2011 H23 |     | 月にまつわるお話、ミニFM<br>放送局、ワークショップ、<br>特別協力：處美野 |              | 作家蔵 |

## ●地図

数字は地図の上から順になっています



©Google

### ①臨江閣

収蔵美術展 コレクション+「つながる、つたえる」

### ②広瀬川美術館

収蔵美術展 コレクション+「つながる、つたえる」

### ③前橋文学館

収蔵美術展 コレクション+「風景の裏側」

### ④前橋中心商店街各所

駅家の木馬まつり

### ⑤ミニギャラリー千代田

市民活動拠点  
アートスクール B, C  
収蔵美術展 コレクション+「風景の裏側」  
プレイベント展示  
収蔵美術展 コレクション+「つながる、つたえる」

### ⑥カフェ Cabo

おやこでねじっこ

### ⑦前橋中央通り商店街

フラッグアート（公開展示）

### ⑧黒田人形店

街中ラジオハイスクール

### ⑨群馬会館

美術館ができる

### ⑩前橋プラザ元気21 別館1階

（旧ウォーク館）

彫刻 1,000 体ツクルンジャー（展示）  
収蔵美術展 コレクション+「風景の裏側」  
収蔵美術展 コレクション+「つながる、つたえる」  
プロポーザルコンペティション（公開展示）  
新しい立体造形：富井大裕 + 照屋勇賢

### ⑪シネマまえばし

美術館をつくる

### ⑫前橋プラザ元気21

駅家の木馬（ワークショップ）  
空に雲を描こう  
アートスクール A  
フラッグアート2011（事前発表会）  
アートコンペライブ2011  
彫刻 1,000 体ツクルンジャー（ワークショップ）

### ⑬前橋市役所

アートコンペライブ2011（展示）

### ⑭前橋市民文化会館

美術館をかたる



## ●広報関係

記事名 日付 新聞名 ページ数

美術館是非 議論再び 2009.03.17 上毛新聞 21  
美術館設立へ基本構想検討委初会合 2009.12.01 上毛新聞 2  
美術館設置構想 前橋市が本格化 2010.03.13 上毛新聞 15  
前橋市の美術館基本構想検討委「旧リビィン別館」軸に 2010.03.30 毎日新聞 25  
旧ウォーク館に美術館 前橋市の検討委 店舗跡活用で一致 2010.03.30 上毛新聞 1  
前橋市美術館検討委が市長に提言 2010.04.17 毎日新聞 23  
前橋市の美術館構想 旧ウォーク館 最有力 2010.04.17 朝日新聞 29  
随想ぐんま 注目集める「美術環」を 2010.06.18 読売新聞 1  
旧ウォーク館 市立美術館に 2010.08.21 朝日新聞 33  
12年度開設へ前橋市 美術館整備に着手 2010.09.01 上毛新聞 1  
ウォーク館跡 美術館に 補正予算案に建設費 2010.09.03 読売新聞 29  
旧ウォーク館に美術館 前橋市 補正予算案に設計費 2010.09.07 日本経済新聞 31  
美術館民間委託「考えていない」 2010.09.11 読売新聞 29  
今年度中にプロボ実施 工事は来年度予定 2010.09.14 群馬建設新聞 1  
今を解く 明日を読む 市美術館 知恵比べ 2010.09.27 上毛新聞 1  
三山春秋 2010.10.10 上毛新聞 1 その他  
来月にもプロボ公告 新美術館の設計で 2010.11.17 群馬建設新聞 1  
前橋市美術館イベント 身近にアート楽しもう 2010.11.24 上毛新聞 24  
緒に就いた前橋市の美術館計画 2010.11.29 産経新聞 25  
前橋市の美術館計画 建設者を全国公募 2010.12.04 上毛新聞 2  
前橋市美術館 工事費17億円 2010.12.04 読売新聞 33  
美術館準備室や危機管理室設置 2010.12.05 上毛新聞 1  
その他  
市民参加で芸術保護を 映画上映とトーク 2010.12.07 上毛新聞 17  
設計者募集開始 2010.12.07 朝日新聞 27  
「前橋に美術館を」トークと映画鑑賞 2010.12.08 産経新聞 19  
美術館建設に向けてイベント 2010.12.09 読売新聞 28  
すいとん作りでアートを身近に 2010.12.10 朝日ぐんま 3  
市美術館開設地 設計者選定で見学会 2010.12.11 上毛新聞 26  
「美術館に関心持って」トークイベント 2010.12.11 毎日新聞 23  
市民参加の仕組みを 椿さんら3人が討論 2010.12.12 上

毛新聞 18  
トークと映画で「前橋美術館」PR きょうシネマまえばし 2010.12.18 上毛新聞 15  
前橋市美術館計画が本格始動「街づくり」の拠点 期待 2010.12.25 上毛新聞 15  
旧「ウォーク館」に美術館 前橋市が基本計画 改装費17億5000万 2011.01.16 東京新聞 26  
設計デザインの公開プレゼン 5社が作品発表 2011.01.28 朝日ぐんま 3  
前橋 美術館の設計理念 熱弁 12年度開設へ 5業者が公開プレゼン 2011.01.31 上毛新聞 22  
前橋市美術館 公開プレゼンで最優秀賞決定 応募作130点 今日から公開 2011.02.11 朝日ぐんま 2  
市美術館の設計 提案作品を展示 あすまで前橋 全国から125点 2011.02.12 上毛新聞 22  
前橋市美術館 プレイベント「朔太郎」テーマに 文学館など3カ所で 絵画や写真30点 2011.02.26 上毛新聞 22  
コレクション＋風景の裏側 2011.03.05 日本経済新聞 33  
前橋総局から 歩いて展覧会 2011.03.11 朝日ぐんま 1  
テーマは朔太郎の「秘密の裏側」前橋市収蔵品&市出身若手の作品 2011.03.19 朝日ぐんま 4  
美術館の準備や 危機管理に重点 前橋市、863人異動 2011.03.29 朝日新聞 24 その他  
前橋市美術館 作家招き芸術の街 拠点提供、創作を公開 2011.05.22 上毛新聞 1  
震災の記憶 作品に 現代美術家・照屋さん 2011.06.30 上毛新聞 24  
外国人芸術家が集う前橋 2011.07.05 読売新聞 34  
新聞、テープで1000体の彫刻 2011.07.09 上毛新聞 文化W1  
未来にニョキニョキ 現代美術作家・照屋勇賢さん 2011.07.15 朝日ぐんま 3  
新聞紙の彫刻できた 動物や昆虫制作 2011.08.03 上毛新聞 12  
体で県内名所表現 前橋でワークショップ 2011.08.04 上毛新聞 18  
木馬引いて元気な街 来月、中心街でまつり 2011.08.05 上毛新聞 22  
創作の持論語る 前橋で富井さん 2011.08.08 上毛新聞 16  
木馬がカラフルに 2011.08.12 上毛新聞 13  
韓国の芸術家招待 前橋の美術館プレ企画 2011.08.12 上毛新聞 16  
プレイベント振り返る 前橋市美術館 2011.08.17 上毛新聞 14 ミニギャラ展示  
繋がる、広がる、交流の「輪」 2011.08.19 朝日ぐんま 3  
前橋に群「馬」の祭りを 商店主ら企画、物語創作 2011.08.20 読売新聞 31  
旧ウォーク館 市立美術館に 2011.08.21 朝日新聞 33  
美術館 来年度オープン 総事業費は18億円 2011.08.24 上毛新聞 1

木馬 鮮やかに彩色 4日にまつり 児童ワークショップ 前橋 2011.08.25 上毛新聞 17  
前橋市美術館の模型展示 2011.08.28 産経新聞 25  
前橋の新美術館です 建築模型の展示はじまる 2011.08.30 上毛新聞 16  
前橋の歴史を未来へ 美術作家の白川さん 4日の木馬まつり語る 2011.08.31 上毛新聞 14  
前橋市美術館 完成模型を展示 2011.09.01 読売新聞 33  
美術館工事で開館日縮小 2011.09.01 上毛新聞 22  
前橋の名画座、一時休館 シネマまえばし 美術館建設で来月上旬 2011.09.02 読売新聞 32  
来年度開設 前橋市美術館 2011.09.03 上毛新聞 15  
街はどう変わる 建築家ら意見交換 2011.09.05 上毛新聞 15  
子供乗せバカパカ 前橋で「木馬まつり」 2011.09.05 上毛新聞 18  
前橋「木馬まつり」活況、5台練り歩き 2011.09.05 読売新聞 29  
美術館建設 前橋の未来は 建築家ら招き10日に催し 2011.09.06 読売新聞 31  
美術館イベントトーク「美術館ができる建築・デザイン・アート」 2011.09.09 朝日ぐんま 3  
美術館の可能性探る 建築家ら意見交換 2011.09.11 上毛新聞 14  
開館へ 市民と交流 市街地に活動拠点 2011.09.14 上毛新聞 16 市民活動拠点  
木馬だ、木馬だ、だ、だ、だ 街と人結びつける祭り 2011.09.23 朝日ぐんま 2  
"前橋市美術館（仮称）が平成24年度オープン  
市民とつながる美術ネットワークの構築目指す" 2011.10.01 新美術新聞 3  
広瀬川をアートに 前橋 韓国人作家が作品構想 2011.10.10 上毛新聞 14  
戦後と現代 芸術競演 あすから市内4会場 2011.11.02 上毛新聞 14  
前橋市収蔵美術展コレクション 2011.11.05 日本経済新聞 35  
前橋市収蔵美術展 未来の美術館考える契機に 2011.11.11 朝日ぐんま 3  
近代の油彩画から最新アートまで 前橋中心部の4会場に登場 2011.11.11 群馬よみうり・前橋ヒューマン 4  
三山春秋 2011.11.13 上毛新聞 1  
想像超えた表現追求 現代作家狩野仁美さん 2011.11.19 上毛新聞 13  
中心街に旗なびく 中学生描く 2011.11.29 上毛新聞 1  
2011フラッグアート 2011.11.30 東京新聞 26  
「風」がテーマのフラッグアートを展示 2011.12.02 群馬よみうり・前橋ヒューマン 3  
"新たななるアーティスト誕生の瞬間に立ち会おう！ 前橋アートコンペライブ" 2011.12.02 群馬よみうり・前橋ヒューマン 3

若手芸術家の力作 公開で審査 2011.12.05 東京新聞 22  
前橋アートコンペ 寺村さん（神奈川）グランプリ 2011.12.05 上毛新聞 18  
年末年始の風物詩 フラッグアート 前橋中央通り商店街 2011.12.05 毎日新聞 23  
市美術館建設案 賛成多数で可決 前橋市議会閉会 2011.12.16 朝日新聞 29  
前橋市会 定数38に 美術館工事案など可決 2011.12.16 読売新聞 33  
前橋に豊かな創造的活動を創出 前橋市美術館プレイベント 2011.12.23 朝日ぐんま 3  
前橋市＝美術館を語る 2011.12.23 毎日新聞 22  
多彩な作品 入賞7作品 2011.12.27 上毛新聞 16  
地域とのつながり模索 2011.12.31 上毛新聞 8  
美術館整備が始動 中心街活性化の核 期待 2012.01.04 上毛新聞 8  
役割・運営法探る 世界の潮流踏まえシンポ 2012.01.06 上毛新聞 20  
美術館のあり方 著名人らが語る 2012.11.11 上毛新聞 18  
地域の支援の輪大切 シンポジウム開催 2012.01.15 毎日新聞 29  
前橋でフラッグアート 2012.01.19 産経新聞 25  
美術館の役割将来像考える 専門家が講演やシンポ 2012.01.15 上毛新聞 28  
理念掲げた美術館に 役割、利用で意見交換 2012.01.22 上毛新聞 15  
前橋市長選 来年開館の美術館 争点に 2012.02.01 東京新聞 20  
県都のあした 前橋市長選2「ハコモノ」効果未知数 2012.02.03 読売新聞 29  
市民参加 成否のカギ 中心街に市美術館 2012.02.04 読売新聞 31  
「新清掃工場」「美術館」争点に 2012.02.08 読売新聞 31  
美術館の役割や可能性を探る 2012.02.10 朝日ぐんま 2  
山本新前橋市長 8番街再開発を凍結 美術館は軌道修正「投資的予算、見直し」 2012.02.21 上毛新聞 1

（平成24年2月29日現在）

●プレイベント 参加者・来場者数

| ナンバー    | 種別          | タイトル                           | 参加者数  |
|---------|-------------|--------------------------------|-------|
| vol. 1  | ワークショップ     | おやこでねじっこ                       | 29    |
| vol. 2  | トーク         | 美術館をつくる 第1回「美術館は誰のモノ？」         | 89    |
| vol. 2  | トーク         | 美術館をつくる 第2回「未来に美術館を残す方法」       | 90    |
| vol. 3  | 展示          | 前橋市美術館(仮称)プロポーザルコンペティション公開展示   | 222   |
| vol. 4  | 展示          | 平成22年度収蔵美術展 コレクション+「風景の裏側」     | 1,031 |
| vol. 4  | 関連イベント(トーク) | アーティスト・トーク                     | 19    |
| vol. 5  | ワークショップ     | 空に雲を描こう！                       | 27    |
| vol. 6  | ワークショップ     | 美術館のウラ側(中止)                    | -     |
| vol. 7  | ワークショップ     | 思い出のリサイクル(中止)                  | -     |
| vol. 8  | ワークショップ     | 放課後 お絵かき隊(中止)                  | -     |
| vol. 9  | 展示          | 新しい立体造形・富井大裕+照屋勇賢              | 526   |
| vol. 9  | 関連イベント(トーク) | 富井大裕トークイベント                    | 23    |
| vol. 10 | スクール        | アートスクール A「ちがいを楽しむ」             | 101   |
| vol. 10 | スクール        | アートスクール B「モヤモヤをかたちにする」         | 66    |
| vol. 10 | スクール        | アートスクール C「美術をかたる」              | 67    |
| vol. 11 | ワークショップ     | 広げよう美術の環 彫刻1,000体ツクルンジャー       | 172   |
|         | 展示          | プレイベント活動報告展示                   | 72    |
| vol. 12 | 地域アートプロジェクト | 駅家(うまや)の木馬 ワークショップ             | 39    |
| vol. 12 | 地域アートプロジェクト | 駅家(うまや)の木馬 木馬まつり               | 810   |
| vol. 13 | トーク         | 美術館ができる 建築・デザイン・アート            | 156   |
| vol. 14 | 展示          | 平成23年度収蔵美術展 コレクション+「つながる、つたえる」 | 1,678 |
| vol. 14 | 関連イベント(トーク) | オープニング・アーティスト・トーク              | 70    |
| vol. 14 | 関連イベント      | 作品解説会                          | 21    |
| vol. 15 | ワークショップ     | 開局！街中ラジオハイスクール                 | 5     |
|         | 展示他         | フラッグアート2011                    | 286   |
|         | 公開コンペ       | アートコンペライブ2011 公開審査             | 176   |
|         | 展示          | アートコンペライブ2011 入賞作品展示           | 553   |
| vol. 16 | シンポジウム      | 美術館をかたる。                       | 388   |

計 6,716 人

●中止となったプレイベント

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により、下記イベントは中止となりました。

【事業名称】美術館プレイベント vol.6 「美術館の裏側」

【開催日時】3 月 13 日(日) 13：30～16：00

【講師】黒澤伸(金沢湯湧創作の森所長)

【会場】ミニギャラリー千代田

【内容】水戸芸術館、金沢 21 世紀美術館のボランティアと仕事をしてきた経験をもとにした話を聞いて、美術館ボランティアの活動を知っていただくワークショップ。

【事業名称】美術館プレイベント vol.7 「思い出のリサイクル」

【開催日時】3 月 19 日(土) 15：00～17：00

【講師】小泉明郎

【会場】ミニギャラリー千代田

【内容】家庭に眠っている過去の映像を上映し、みんなで鑑賞し語り合うことで、新たな創造の素材として生まれ変わらせようプロジェクト。

【事業名称】美術館プレイベント vol.8 「放課後 お絵かき隊」

【開催日時】3 月 20 日(日) 13：30～15：30

【講師】牛嶋直子

【会場】中央公民館アトリエ

【内容】普段はひとりで描いているかもしれない絵を、みんなで一緒に体を動かして描くワークショップ。

●ご協力くださった方々

プレイベントの実施にあたっては、ここに記載しきれなかったお名前も含めて多くの方々のご協力を頂きました。  
ここに厚く御礼申し上げます。

|        |         |         |           |               |
|--------|---------|---------|-----------|---------------|
| 青山 萌香  | 片山 萌絵   | 桜井 えり佳  | 手塚 紗弥子    | 藤井 久代         |
| 秋田 望   | 片山 康浩   | 桜澤 由生   | 寺澤 清人     | 藤澤 陽          |
| 秋元 雄史  | 勝部 知子   | 佐藤 栄作   | 寺澤 知実     | 藤 浩志          |
| 坪 若菜   | 勝見 由佳   | 佐藤 聖良   | 寺澤 由樹     | 藤原 秀博         |
| 飯島 小雪  | 加藤 萌菜美  | 佐藤 静香   | 寺澤事務所・工房  | ペ・ヨンファン       |
| 飯塚 大周  | 角田 優紀   | 佐藤 正幸   | 寺澤 徹      | 星野 謙          |
| 井口 まり子 | 金丸 弘美   | 沢野 祐也   | 照屋 勇賢     | 堀田 真由         |
| 池上 瑠璃子 | 金田 佳子   | 澤村 有紀   | 處 美野      | 前橋ボランティア連絡会   |
| 池田 庄平  | 狩野 仁美   | 下野 美沙妃  | 殿岡 渉      | 堀 芳江          |
| 石田 敏明  | 上園 和博   | 柴崎 南奈   | 富井 大裕     | 前橋中央通り商店街振興組合 |
| 石橋 奈保美 | 亀井 章央   | 清水 昭子   | 永井 多恵子    | 前橋中心商店街協同組合   |
| 市原 由美子 | 刈宿 俊文   | 清水 和美   | 中澤 多恵子    | 松井 淳          |
| 伊藤 修二  | 川隅 俊郎   | 下地 五月   | 中澤 宏行     | 松井 雄司         |
| 伊東 順二  | 川鍋 正規   | 小田 一也   | 長島 秋夫     | 松本 勇馬         |
| 猪瀬 麻由美 | 菊地原 真理亜 | 白川 昌生   | 中島 美江子    | 間々田 久渚        |
| 猪俣 浩司  | 木暮 伸也   | 菅野 亮佑   | 中島 佑太     | 水谷 俊博         |
| 今井 由佳  | 北原 雄一郎  | 鈴木 勝    | 中野 和夫     | 緑川 まりか        |
| 岩田 ちひろ | 木村 浩子   | 鈴木 紗代   | 中野 真衣     | 武藤 大祐         |
| 岩田 桃   | 木村 祐子   | 鈴木 ゆかり  | 中原 稜司     | 武藤 貴代         |
| 植木 修   | 工藤 春香   | 鈴木 芳雄   | 中村 恭子     | 村崎 友里恵        |
| 牛嶋 直子  | 国崎 理嘉   | 須藤 和之   | 中村 崇也     | 茂木 一司         |
| 内山 恵子  | 久保 大輔   | 砂田 朋哉   | 中村 ひろみ    | 本木 克昌         |
| 内山 浩幸  | 倉持 奈央   | 関口 光太郎  | 中村 まの     | 森 芽里子         |
| 梅津 宏規  | 黒岩 良    | 関根 貴之   | ラース・ニッティヴ | 森田 恵美         |
| 江塚 友樹  | 黒澤 伸    | 瀬戸口 智恵  | 西澤 明洋     | 八木 隆行         |
| 遠藤 尚樹  | 黒田 桂子   | 芹口 拓也   | 西村 圭吾     | ヤノベ ケンジ       |
| 遠藤 翠   | 黒田人形店   | 仙波 由季子  | 新田 安紀芳    | 矢部 直人         |
| 大川 花菜  | 郡司 明子   | 染谷 滋    | 萩原 希世文    | 山上 康正         |
| 逢坂 恵理子 | 小阿瀬 直   | 高嶋 直人   | 秦 希望      | 山重 徹夫         |
| 大嶋 彩   | 小泉 明郎   | 高戸 聡    | 羽田野 まり恵   | 山田 有香         |
| 大下 良美  | 小池 志津子  | 高橋 晶子   | 羽鳥 あゆみ    | 山梨 綾菜         |
| 大橋 洋介  | 木暮 克昌   | 高橋 早百合  | 林 恵理奈     | 山本 真彦         |
| 大橋 慶人  | 小竹 裕人   | 立川 綾    | ピーター・バラカン | 吉田 綺子         |
| 大島 涼子  | 後藤 朋美   | 立木 祥一郎  | 原田 杏里     | 吉田 智大         |
| 岡田 大将  | 小林 孝子   | 田中 仁    | 原田 侑里     | 吉田 仁絵         |
| 岡部 あおみ | 小林 望美   | 田中 彩    | 原田 美樹     | 吉田 真弓         |
| 尾形 雄樹  | 小林 麻美   | 田村 次男   | 平出 杏      | 若杉 麻美         |
| 荻原 林太郎 | 小林 教人   | チョ・ムンジュ | 平賀 直      | 若槻 友宏         |
| 奥泉 志帆  | 小松 剛之   | 津久井 麻実  | 深井 麻菜     | 若槻 初美         |
| 小野田 藍  | 小松 知寛   | 津島 千絵   | 深須 砂里     | 若月 家光         |
| 小野田 賢三 | 近藤 節    | 辻本 英里   | 福島 彩      | 我妻 浩之         |
| 小見 純一  | 近藤 浩通   | 常見 陽介   | 福田 折江     | 鷲塚 裕太郎        |
| 樺沢 みゆき | 斉藤 早紀   | 椿 昇     | 福田 仁      | 渡邊 将弘         |
| 鹿島 聖子  | 斎藤 陽一   | 鶴田 翔    | 福西 敏宏     | 渡邊 壱世         |
| 梶谷 裕子  | 酒井 重良   | 手島 彰    | 福西 みゆき    | 渡辺 彩          |
| 片岡 咲子  | 佐川 愛実   | 手塚 千尋   | 藤井 光      |               |

(敬称略)



前橋市における美術館構想

プレイベントの記録 2010.10 - 2012.3

|         |                                                           |
|---------|-----------------------------------------------------------|
| 執 筆     | 住友文彦、辻瑞生、九富美香、野崎美樹<br>(前橋市政策部文化国際課美術館開設準備室)               |
| 編集・デザイン | 福西敏宏(特定非営利法人まえばし市民活動支援センター)                               |
| 制 作     | 特定非営利法人まえばし市民活動支援センター                                     |
| 印 刷     | 川島製版                                                      |
| 撮 影     | 遠藤尚樹、木暮伸也                                                 |
| 発 行     | 前橋市<br>〒371-8601 群馬県前橋市大手町2丁目12-1<br>tel 027-224-1111(代表) |
| 発行日     | 平成24年3月                                                   |

本書の全部又は一部を無断で複製(コピー)することは著作権法上の例外を除き、禁じられています。



プレイベントの記録

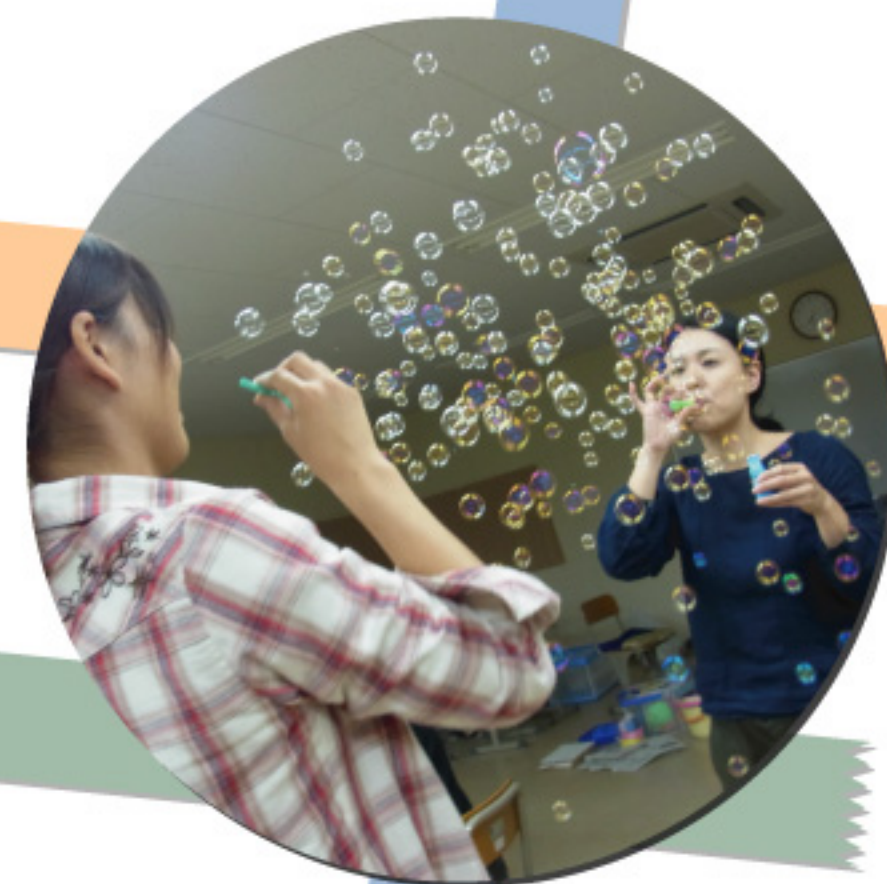
前橋市における美術館構想

2010.10 ~ 2012.3



つながる・成長する・文化を創る





2010.10 ~ 2012.3

プレイベントの記録

前橋市における美術館構想



前橋市における美術館構想

プレイベントの記録

2010.10 ~ 2012.3

# 前橋市における美術館構想 プレイベントの記録 2010.10 ~ 2012.3

